

第44回 東北理学療法学会

理学療法とファシリテーション
ー課題解決のための理学療法士の間づくりー

プログラム集

PROGRAM & ABSTRACT

2026. 9.26 (SAT) 9.27 (SUN)

山形テルサ

主催：日本理学療法士協会 東北ブロック協議会

担当：一般社団法人 山形県理学療法士会

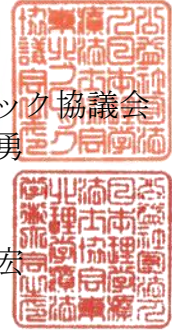
令和8年8月吉日

施設長
病院長
所属機関長

殿

日本理学療法士協会 東北ブロック協議会
会長 菅原 慶勇

第44回東北理学療法学会
大会長 黒田 昌宏



第44回東北理学療法学会出張許可のお願い(ご依頼)

謹啓

時下貴台におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より日本理学療法士協会東北ブロック協議会ならびに一般社団法人山形県理学療法士会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度下記により第44回東北理学療法学会を開催する運びとなりました。

つきましては、貴職員で 理学療法士 氏 の学会大会出張につきまして、格段のご配慮を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。
謹白

記

1. 大会名 第44回東北理学療法学会
2. テーマ 理学療法とファシリテーション
ー課題解決のための理学療法士の間づくりー
3. 会 期 令和8年9月26日(土) 9:30 ~ 17:30
27日(日) 9:30 ~ 15:40
4. 会 場 山形テルサ(〒990-0828 山形県山形市双葉町1-2-3)
5. 主 催 日本理学療法士協会 東北ブロック協議会
6. 担 当 一般社団法人 山形県理学療法士会

以上

《 お問い合わせ先 》
第44回東北理学療法学会
準備委員長 寺崎 聡
E-mail : 44tohoku@gmail.com

目次（大会プログラム）

タイトル	ページ番号
大会長挨拶	2
日程表	3
アクセス案内	4
会場案内	5
参加者へのご案内	7
参加登録のご案内	10
生涯学習履修登録のご案内	12
大会企画プログラム目次	15
後援御芳名	66
ご協力頂いた企業・団体 御芳名	67
第45回東北理学療法学術大会のご案内	68
審査員一覧	69
学術大会運営組織	70

大会長挨拶



第44回東北理学療法学術大会

大会長 くろだ まさひろ
黒田 昌宏

(みゆき会病院)

このたび、2026年9月26日（土）27日（日）に第44回東北理学療法学術大会を山形で開催することとなりました。前回の山形大会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響により、急遽オンラインでの開催となりました。そのため12年ぶりの山形での開催です。東北の理学療法士の皆様の英知の結集と新たなスタートの場にしたいと考えています。

第44回学術大会のテーマは、「理学療法とファシリテーション-課題解決のための理学療法士の間づくり-」です。ファシリテーションとは、促進する、やりやすくする、簡単にするという意味を含み、『人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること』です。集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習等、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく働きを意味します。会議やワークショップの進行にとどまらず、リハビリテーションに関わる課題解決やチームアプローチにおいて重要な役割を果たします。本学術大会では、課題解決のための理学療法士の間づくりとして、理学療法の専門性を深めるとともに、その専門性を対象者や社会にどのように実践し、活かしていくかについて考えていると思っています。私たちの周りには、日々たくさんの課題があります。理学療法士として運動機能の回復を図る場合も、日常生活動作の改善を図る場合も、障害があっても住み慣れた街で、自分らしく暮らすために地域や社会に働きかける場合も様々な課題が存在します。このような課題を解決するためには、理学療法の専門的な知識と技術の向上に加え、異なる経験や知識を共有する場、多様な意見を受け入れ新しいアイデアを創発する場、それらを実装させる場が必要と考えます。

本学術大会では、理学療法における専門的な知識や技術としてのテクニカルスキルを高め、それを補完するためのノンテクニカルスキルとしてのファシリテーションについて考え、新しいスタートにしたいと考えております。参加者にとって有意義な学術大会にするとともに、学術大会が対話の場となり、参加した方がつながり、元気になる場となることを目指します。理学療法とファシリテーションで、どのような場を作るのかを皆さんと一緒に考えたいと思っています。皆様のご協力とご参加を心よりお待ちしております。

2025年12月吉日

第44回 東北理学療法学会 日程表

1日目 2026年9月26日(土)

	第1会場 (テルサホール)	第2会場 (アブローズ)	ポスター会場		対話の場 (テルサホール ホワイエ)
			大会議室	リハーサル室	
9:00-9:30	受付		ポスター貼付		
9:30-10:00	開会式				
10:10-10:40	大会長基調講演 講師：黒田昌宏 座長：鈴木誠				
10:50-11:50	特別講演 講師：松井一人 座長：鈴木健太	一般演題(口述 1) 座長：浦山樹			
12:00-12:15	次期大会長挨拶 表彰式(論文賞)				
12:15-13:00	休憩				
13:00-14:00	参加型シンポジウム 講師：浦山絵里, 酒井尚子, 天野成也, 日塔善之 座長：黒田昌宏	一般演題(口述 2) 座長：網本和	ポスター 1 ポスター 2	ポスター 3 ポスター 4	
14:10-15:10		東北理学療法教育研究会 講師：小林賢 座長：高見彰淑	ポスター 5 ポスター 6	ポスター 7	
15:20-16:20	教育講演 I 講師：山口智史 座長：安倍恭子	一般演題(口述 3) 座長：佐竹将宏	ポスター 8 ポスター 9	ポスター 10 学生セッション (ポスター 11)	対話の場 I ファシリテーター 浦山絵里
16:30-17:30	セミナー I 講師：本田知久 座長：丹野克子	一般演題(口述 4) 座長：藤田俊文			対話の場 II ファシリテーター 黒田昌宏

2日目 2026年9月27日(日)

	第1会場 (テルサホール)	第2会場 (アブローズ)	ポスター会場		対話の場 (テルサホール ホワイエ)
			大会議室	リハーサル室	
9:00-9:30	受付		ポスター貼付		
9:30-10:30	セミナー II 講師：須賀康平 座長：鈴木克彦	一般演題(口述 5) 座長：小林武	ポスター 12 ポスター 13	ポスター 14 ポスター 15	対話の場 III ファシリテーター 山田カオル, 佐藤志保
10:40-11:40	教育講演 II 講師：上月正博 座長：佐藤聡見	セミナー III 講師：伊藤徳明 座長：山本洋介			対話の場 IV ファシリテーター 浦山絵里
11:40-12:40	休憩				
12:40-13:40	教育講演 III 講師：加藤浩 座長：石川雅樹	東北ブロック協議会 教育研修部主催研修会 講師：渡部潤一 座長：海老名陽介	ポスター 16 ポスター 17	ポスター 18	対話の場 V ファシリテーター 工藤美季
14:00-15:00	市民公開講座 講師：奥山慎一郎 座長：黒田昌宏	セミナー IV 講師：三木貴弘 座長：栗田官享	ポスター撤去		対話の場 VI ファシリテーター 工藤美季
15:10-15:40	閉会式 表彰(大会賞)				



44th Tohoku PT Congress in Yamagata

アクセス案内

会場：山形テルサ

(山形県山形市双葉町1-2-3)

<http://www.yamagataterrsa.or.jp/>

山形テルサ周辺駐車場のご案内



【JRをご利用の場合】

- JR山形駅より徒歩3分

【お車をご利用の場合】

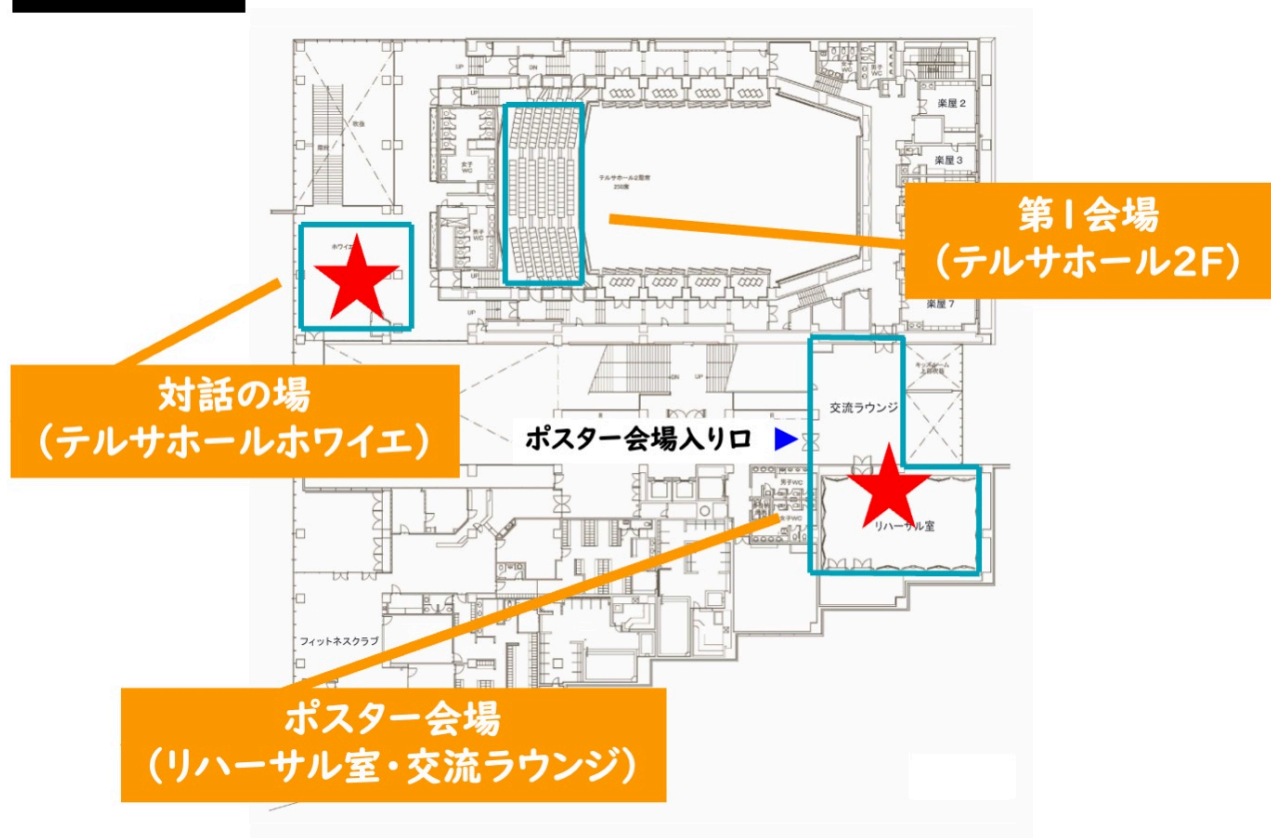
- 山形テルサには無料駐車場がございませんので、近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。
- 山形自動車道 山形蔵王ICより約20分

会場案内

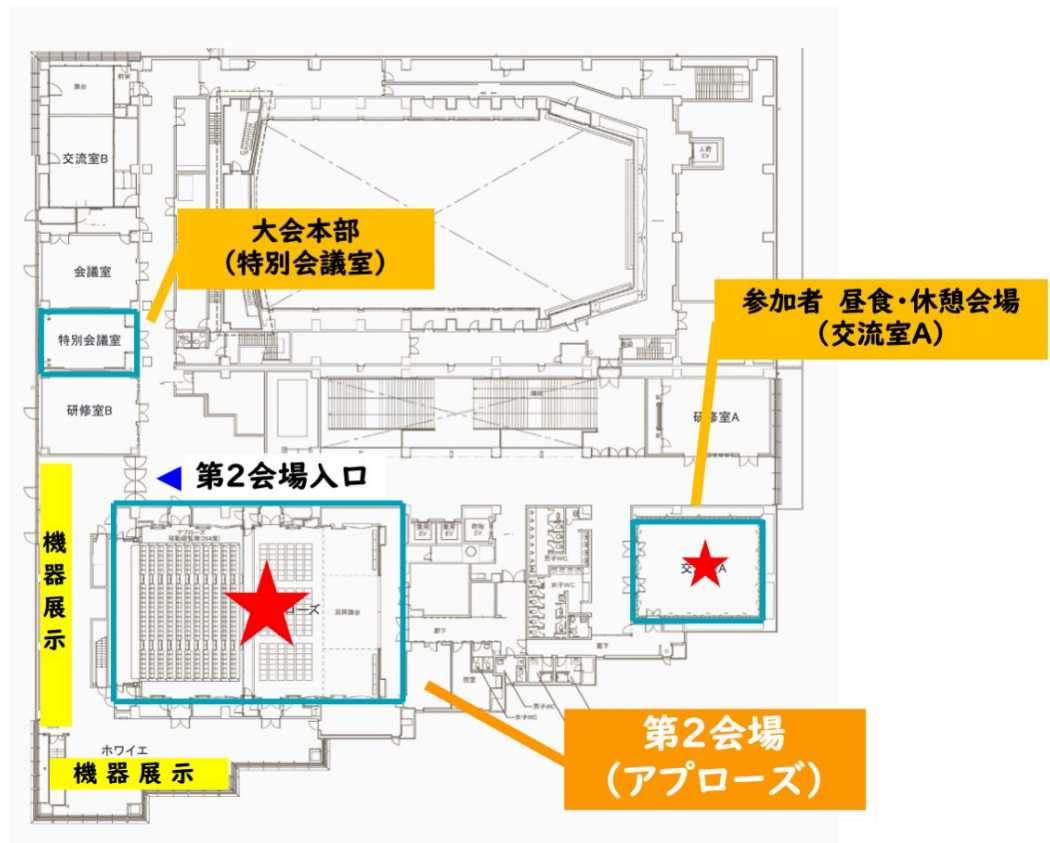
会場案内 1F



会場案内 2F



会場案内 3F





参加者へのご案内



【参加受付について】

《場所》 1階テルサホール出入口

《受付時間》

9月26日（土） 9:00～17:30

9月27日（日） 9:00～14:00

◎会員の皆様

- 事前申込・当日申込ともにJPTAアプリにて参加受付を行います。
- 学会参加受付のQRコード読み取り完了画面を受付係にご提示ください。
- ご提示と引き換えに、ネーム・参加証明書・参加費領収書をお渡しいたします。

◎非会員・他職種・学生の皆様

- 事前申込・当日申込ともにPeatixアプリまたはブラウザ（サイト）にて参加受付を行います。
- Peatixアプリまたはブラウザ（サイト）でご購入いただいたチケットのQRコードを受付係にご提示ください。
- 受付係が読み取りのうえ、ネーム・参加証明書・参加費領収書をお渡しいたします。
- 学生は、記帳をお願いいたします。

※当日申込の方へのご注意

- JPTAアプリまたはPeatixアプリ（サイト）からお申込みのうえ、上記のご自身に該当する流れで受付をお願いいたします。
- 参加費のお支払いはいずれの方法でお申込みいただいてもクレジットカード決済のみとなります。
- 参加費は事前申込の金額とは異なりますのであらかじめご了承ください。

【駐車場について】

- 山形テルサには無料駐車場がありませんので、近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

【クローク】

《場所》1階テルサホール

《お預かり時間》

9月26日（土） 9:00～17:50

9月27日（日） 9:00～16:00

- 参加受付後にご利用いただけます。
- 貴重品やパソコン等の機器類はお預かりできませんので、ご了承ください。

【会場内での留意事項】

- 会場内では、必ずネームカードをホルダーに入れ、首から下げてご着用ください。ネームカードの確認ができない場合、入場をお断りする場合がございます。受付にてお渡ししたネームカードに所属・氏名を記載の上、ネームホルダーに入れて参加ください。
- 緊急性・公共性の高いご案内については、会場アナウンスにてお知らせいたします。個人のお呼び出しについては、緊急の場合を除き対応いたしかねますのでご了承ください。
- 携帯電話やスマートフォンは、協会アプリ使用時以外は、電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。
- 会場内での録音、写真撮影、ビデオ撮影はお断りいたします。
- テルサホール内は飲食が禁止となっております。アプローズ、ホワイエ、通路休憩スペースでの飲食をお願いいたします。なお、両日10:00～14:00、3階交流室Aを昼食・休憩会場としておりますのでご利用ください。
- お食事の際は昼食・休憩会場または会場近隣の飲食店をご利用ください。売店、食堂の営業はございませんが、当日会場内にてお弁当の販売を予定しております。なお、昼の弁当等で出たゴミは回収させていただきますが、その他のゴミは原則持ち帰りにご協力をお願いいたします。
- 会場内および会場敷地内は全面禁煙となっております。加熱式タバコ等の使用もご遠慮ください。
- 服装についてはクールビズ（ノーネクタイ・ノージャケット等）でのご参加も可能です。

【オンデマンド配信について】

- 本学会では、会場参加・オンデマンド参加の皆様を対象として、閉会後に一部プログラムのオンデマンド配信（配信期間は10月26日（月）～11月30日（月）を予定）を行う予定です。配信につきましては、詳細が決まり次第学会 HP 等でご案内いたします。

【一般市民および家族等の参加について】

- 本学会では、一般市民やご家族の参加を推進しております。お子様や祖父母など家族同伴での学会参加が可能となっておりますので、ぜひ、ご家族でご参加ください。

【親子モニタールーム・親子観覧席について】

- 本学会では、お子様連れでも気兼ねなく参加できるよう親子モニタールームを準備しております。こちらにはモニターを設置しテルサホールの講演を視聴することができますので、ご活用ください。詳しくは受付にてご確認ください。
- テルサホール、アプローズにおいて、出入り口付近に親子観覧席を設定しておりますのでご利用ください。
- 親子モニタールームには、常駐するスタッフはおりません。お子様から目を離さないようにご注意ください。
- 託児所はございません。託児を希望される場合は、近隣の託児施設をご利用ください（有料）。

【会場のWi-Fi環境について】

- 会場のWi-Fi環境は山形テルサのfree Wi-Fiのみとなっております。

【参加証・領収書について】

- 当日参加の方には、受付にてお渡し致します。
- オンデマンド配信を視聴される方には、メールにて送付致します。

参加登録のご案内

《会員の場合》

日本理学療法士協会のマイページから参加登録してください。

【対面参加（オンデマンド視聴付き）】と【オンデマンド参加】の二つの方法があります。

セミナー名：第44回東北理学療法学術大会【対面参加（オンデマンド視聴付き）】

セミナーID：159517

セミナー名：第44回東北理学療法学術大会【オンデマンド参加】

セミナーID：159523

カリキュラムコード：160 コーチング・ファシリテーション 14ポイント（点）

- 事前申込開始日：7/6（月）
- 事前申込締切日：
 - 9/17（木）（クレジットカード払いの場合）
 - 8/29（土）（現金振込の場合）※支払期限 9/9（水）

当日参加受付での支払方法：クレジットカード払いのみ

《非会員、他職種、学生の場合》

チケット販売サービスPeatixのイベントURLから参加登録してください。

イベントURL：<https://44tohoku.peatix.com>

事前申込期間：7/6（月）～ 9/27（日） ※事前～当日まで申込可能

支払方法：クレジットカード払いのみ

参加費

【対面参加（オンデマンド視聴付き）】		
	【事前登録】	【当日参加】
東北ブロック所属会員	3,000円	4,000円
東北ブロック所属会員以外	5,000円	6,000円
	【登録時期を問わず】	
非会員	10,000円	
他職種	5,000円	
学生	無料	
一般（公開講座のみ）	無料	
【オンデマンド参加】		
東北ブロック所属会員	3,000円	
東北ブロック所属会員以外	5,000円	

生涯学習履修登録のご案内

本学会大会では、日本理学療法士協会の生涯学習制度に基づき、履修登録を実施いたします。「対面参加（オンデマンド視聴付き）」または「オンデマンド参加」のいずれかの形式にて、学会大会参加の履修登録が可能です。なお、**個別プログラムの履修登録は対面参加者のみ対象**となります。参加形式によりポイント付与の条件が異なりますので、以下の内容をご確認のうえ、お申し込みください。

参加形式	学会大会参加	個別プログラム参加
対面参加 (オンデマンド視聴付き)	○	○
オンデマンド参加	○	×

※対面参加（オンデマンド視聴付き）の方は、当日対面参加の都合がつかなくなった場合に限り、オンデマンド視聴による参加でも履修登録が可能です。

【学会大会参加 履修目的】

- ・ 登録理学療法士更新：14 ポイント ※カリキュラムコードは下表参照
- ・ 認定/専門理学療法士更新：14 点
- ・ 専門理学療法士取得：要件②

	学会テーマ	カリキュラムコード	登録理学療法士更新（ポイント）	認定・専門理学療法士取得・更新（点）
学会参加	理学療法とファシリテーション -課題解決のための理学療法士の場づくり-	160 コーチング・ファシリテーション	14.0	14.0

【個別プログラム 履修目的（対面参加者限定）】

- ・ 登録理学療法士更新：各 0.5～2 ポイント ※カリキュラムコードは下表参照
- ・ 認定/専門理学療法士更新：各 0.5～2 点

プログラム	講演タイトル	カリキュラムコード	登録理学療法士更新（ポイント）	認定・専門理学療法士取得・更新（点）
大会長基調講演	理学療法とファシリテーション -課題解決のための理学療法士の場づくり-	23 理学療法管理・学	0.5	0.5
特別講演	次世代の地域課題の解決に期待される理学療法士の新たな役割とは -2040 年問題の波に淘汰されないために、理学療法士が持つべき視点と行動-	172 キャリアデザイン	1.0	1.0

参加型シンポジウム	モヤモヤを第一歩に変える理学療法士の場づくり - 個人の思いをみんなのアイデアに変えるファシリテーション -	24 信頼関係の構築と協同作業の実践	2.0	2.0
教育講演 I	神経理学療法における課題解決の場づくり	173 物理療法	1.0	1.0
教育講演 II	内部障害リハビリテーションの現在到達点：寿命も伸ばせる国民のための標準医療！	2 リハビリテーション医学・医療	1.0	1.0
教育講演 III	発信がつなぐ理学療法研究 - 基礎・工学・企業と広がる学際的場づくり -	175 バイオメカニクス・人間工学	1.0	1.0
セミナー I	ファシリテーションの実践 - 「拒否」の場面から問い直す私たちの在り方 -	36 臨床心理学、心理社会的アプローチ	1.0	1.0
セミナー II	恐怖回避思考を打破するファシリテーション：末梢感作（筋膜）と中枢感作を考慮した暴露療法の展開	93 疼痛：慢性痛	1.0	1.0
セミナー III	スポーツ現場に求められる理学療法	177 スポーツ障害の予防と管理	1.0	1.0
セミナー IV	理学療法を社会に実装するために～産業分野と予防分野での取り組み～	155 産業理学療法における理学療法	1.0	1.0
市民公開講座	多職種連携が織りなす地域づくり～在宅医療が彩る山形～	166 在宅医療と理学療法	1.0	1.0
東北理学療法教育研究会	臨床の立場からみた臨床実習の問題点－協同学習 2:1 モデルの現状と課題	158 臨床実習と教育	1.0	1.0
東北ブロック協議会教育研修部研修会	誰でも明日から始められる臨床研究 ～N-of-1 研究がつなぐ臨床とエビデンス～	47 統計学	1.0	1.0

【履修登録に関する重要なお知らせ】

● 履修目的の選択について

セミナー申し込み時に履修目的を選択してください。

一度選択した履修目的は変更できませんので、内容をご確認のうえでご選択ください。

● JPTA アプリについて

履修登録には「JPTA アプリ」の QR コード読取機能を使用します。

事前に以下の URL よりアプリをダウンロードください（推奨）。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newssystem/>

アプリの最新版の状態、およびログイン ID・パスワードをご確認のうえ、事前にログイン可能か必ずご確認ください。

- **学術大会参加の履修登録について**

学術大会参加の履修登録は、「対面参加（オンデマンド視聴付き）」「オンデマンド参加」とともに会期中に学術大会参加用 QR コードを読み取ることで履修登録されます。登録後は、各自マイページにて履修登録の完了をご確認ください。

※「対面参加（オンデマンド視聴付き）」と「オンデマンド参加」の重複履修は認められていません。重複履修が判明した場合は、後日履修取り消しの対応を行い、該当者には個別にご連絡いたします。

- **個別プログラムの履修登録について**

個別プログラムは入退室管理により履修登録を行います。講演開始から終了までの参加が履修ポイント付与の条件です。JPTA アプリで QR コードの読み取りを行ってください。QR コードは第一会場・第二会場ともに出入口付近と会場内サブスクリーンに、講演開始 10 分前から開始まで掲示されます。遅刻・早退については出入口スタッフが確認し、該当者には履修ポイントを付与しません。

- **JPTA アプリ QR コード読取トラブルについて**

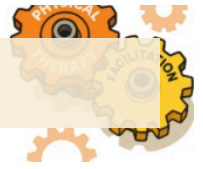
JPTA アプリが使用できない場合や QR コード読み取りエラーが発生した場合は、講演終了後 30 分以内に受付スタッフまでお申し出ください。紙面での登録受付にて対応いたします。

- **前期研修・後期研修履修者の履修登録について** 前期・後期研修の履修者には生涯学習ポイントの付与はありませんが、履修登録を行うことでマイページ上に受講履歴が反映されます。ぜひ登録を行ってください。

【発表者、座長、講師、査読者に関する履修登録】

下記に該当する方には、学会側にて一括で点数付与いたしますので、個別の申請は不要です。

- ブロック学会での一般発表（筆頭演者）：（必須要件）0-2）または 4-1） 20 点
- ブロック学会での講演講師・シンポジウム・パネリスト：4-2） 20 点
- ブロック学会での座長：5-2） 10 点
- ブロック学会での演題査読：4-4） 5 点



大会企画プログラム

大会長基調講演

テーマ：

理学療法とファシリテーション -課題解決のための理学療法士の場づくり-

時間：9月26日（土） 10：10～10：40

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	黒田 昌宏	社会医療法人みゆき会 みゆき会病院
座 長	鈴木 誠	東北文化学園大学

特別講演

テーマ：

次世代の地域課題の解決に期待される理学療法士の新たな役割とは
-2040年問題の波に淘汰されないために、理学療法士が持つべき視点と行動-

時間：9月26日（土） 10：50～11：50

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	松井 一人	株式会社ほっとリハビリシステムズ
座 長	鈴木 健太	済生会 山形済生病院

参加型シンポジウム

時間：9月26日（土） 13：00～15：10（14時から10分休憩を挟みます）

場所：第1会場（テルサホール）

テーマ：

モヤモヤを第一歩に変える理学療法士の場合づくり
-個人の思いをみんなのアイデアに変えるファシリテーション-

講師

浦山 絵里

ひとつづくり工房esuco

テーマ：

病院での理学療法士の場合づくり

講師

酒井 尚子

鶴岡協立リハビリテーション病院

テーマ：

地域での理学療法士の場合づくり

講師

天野 成也

ミロク脳神経リハビリクリニック

テーマ：

予防分野での理学療法士の場合づくり

講師

日塔 善之

おやま整形外科クリニック

座長

黒田 昌宏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

教育講演Ⅰ

テーマ：

神経理学療法における課題解決の場づくり

時間：9月26日（土） 15：20～16：20

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	山口 智史	京都大学
座 長	安倍 恭子	済生会 山形済生病院

教育講演Ⅱ

テーマ：

内部障害リハビリテーションの現在到達点：寿命も伸ばせる国民のための標準医療！

時間：9月27日（日） 10：40～11：40

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	上月 正博	山形県立保健医療大学・東北大学
座 長	佐藤 聡見	福島県立医科大学

教育講演Ⅲ

テーマ：

発信がつなぐ理学療法研究 -基礎・工学・企業と広がる学際的場づくり-

時間：9月27日（日） 12：40～13：40

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	加藤 浩	山形県立保健医療大学
座 長	石川 雅樹	山形大学医学部附属病院

セミナーⅠ

テーマ：

ファシリテーションの実践 - 「拒否」の場面から問い直す私たちの在り方-

時間：9月26日（土） 16：30～17：30

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	本田 知久	一般財団法人 総合南東北病院
座 長	丹野 克子	山形県立保健医療大学

セミナーⅡ

テーマ：

恐怖回避思考を打破するファシリテーション：末梢感作（筋膜）と中枢感作を考慮した暴露療法の展開

時間：9月27日（日） 9：30～10：30

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	須賀 康平	FuncPhysio NY
座 長	鈴木 克彦	山形県立保健医療大学

セミナーⅢ

テーマ：

スポーツ現場に求められる理学療法

時間：9月27日（日） 10：40～11：40

場所：第2会場（アプローズ）

講 師	伊藤 徳明	CROSS x OVER
座 長	山本 洋介	山形徳洲会病院

セミナーⅣ

テーマ：

理学療法を社会に実装するために ～産業分野と予防分野での取り組み～

時間：9月27日（日） 14：00～15：00

場所：第2会場（アプローズ）

講 師	三木 貴弘	株式会社PREVENT
座 長	栗田 宜亨	日本海酒田リハビリテーション病院

市民公開講座

テーマ：

多職種連携が織りなす地域づくり ～在宅医療が彩る山形～

時間：9月27日（日） 14：00～15：00

場所：第1会場（テルサホール）

講 師	奥山 慎一郎	医療法人社団 侑真 訪問診療クリニックやまがた
座 長	黒田 昌宏	社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

東北理学療法教育研究会

テーマ：

臨床の立場からみた臨床実習の問題点－協同学習2:1モデルの現状と課題

時間：9月26日（土） 12：40～13：40

場所：第2会場（アプロース）

講 師	小林 賢	慶應義塾大学病院
座 長	高見 彰淑	弘前大学

東北ブロック協議会 教育研修部主催研修会

テーマ：

誰でも明日から始められる臨床研究 ～N-of-1研究がつなぐ臨床とエビデンス～

時間：9月27日（日） 12：40～13：40

場所：第2会場（アプロース）

講 師	渡部 潤一	山形県立保健医療大学
座 長	海老名 陽介	公立置賜長井病院

対話の場Ⅰ

テーマ：
シンポジウムをもっと話そう えんたくんでの場づくり

時間：9月26日（土） 15：20～16：20

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター	浦山 絵里	ひとづくり工房esuco
----------	-------	--------------

対話の場Ⅱ

テーマ：
モヤモヤからチーム力を高める ミニホワイトボードでの場づくり

時間：9月26日（土） 16：30～17：30

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター	黒田 昌宏	社会医療法人みゆき会 みゆき会病院
----------	-------	-------------------

対話の場Ⅲ

テーマ：
医療介護連携をブロックで語ろう
ーLEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと 教材を活用したワークショップ体験会ー

時間：9月27日（日） 9：30～10：30

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター	山田 カオル	山形県立保健医療大学
ファシリテーター	佐藤志保	山形県立保健医療大学 看護学科

対話の場Ⅳ

テーマ：

これからのキャリアデザインを考えるジョブヒストリー曼荼羅体験
～これまでを見直し、対話で自分のリソースを探そう～

時間：9月27日（日） 10：40～11：40

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター

浦山 絵里

ひとづくり工房esuco

対話の場Ⅴ

テーマ：

面談に役立つファシリテーション

時間：9月27日（日） 12：40～13：40

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター

工藤 美季

tunagu

対話の場Ⅵ

テーマ：

哲学的な対話のための場づくり 「学ぶ」とは

時間：9月27日（日） 14：00～15：00

場所：対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター

工藤 美季

tunagu

大会長基調講演

理学療法とファシリテーション -課題解決のための理学療法士の場づくり-

2026/09/26(土) - 10:10 ~ 10:40

第1会場 (テルサホール)

大会長



くろだ まさひろ
黒田 昌宏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

ご略歴

学歴

2000年 山形県立保健医療短期大学 卒業
2012年 山形県立保健医療大学大学院 修士課程修了(保健医療学)

経歴

2000年 財団法人脳血管研究所 美原記念病院 入職
2007年 社会医療法人みゆき会 みゆき会病院 入職

資格

専門理学療法士(理学療法教育)
認定理学療法士(健康増進・参加)
ホワイトボード・ミーティング®認定講師 アドバンス

座長

鈴木 誠 東北文化学園大学



理学療法とファシリテーション -課題解決のための理学療法士の場づくり-

黒田 昌宏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

本講演では、「理学療法とファシリテーション」というテーマを軸に、ファシリテーションの意義を再考し、理学療法との関わりについて考察いたします。ファシリテーションとは、「人々の活動が容易にできるように支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること」です。英語のfacilitateには、「促進する」「やりやすくする」「簡単にする」という意味があります。ファシリテーションは、会議を円滑に進行する技術として理解されることが少なくありません。しかし、本質は人や集団が目的に向かって主体的に力を発揮できるよう、対話や協働のプロセスを支えることであるといえます。

理学療法の中でも臨床や研究、教育において「やりやすくする」というプロセスは、多様な場面で実践されています。本講演では、理学療法とファシリテーションの共通性を「場づくり」という視点からとらえ直します。場づくりとは、参加している人たちが、主体的に取り組みお互いの強みを活かしながら進めることであり、対話を通じて自己選択・自己決定のハードルを下げるプロセスであると考えます。そのためには、ゴールを共有することや不安がなく声を出しやすい関係づくり、発散・収束・活用の話し合いのプロセスや意見を可視化するといった環境を整えることが必要です。「何を言いたいのかははっきりわからない」「言いたいことが上手く伝わらない」という時こそ場づくりのチャンスです。

理学療法とファシリテーションについて、臨床場面だけではなく多職種連携や人材育成、地域活動の視点で「課題解決のための場づくり」について学会全体を通して考えるきっかけになればと思っています。

特別講演

次世代の地域課題の解決に期待される 理学療法士の新たな役割とは
-2040年問題の波に淘汰されないために、理学療法士が持つべき視点と行動-

2026/09/26(土) - 10:50 ～ 11:50

第1会場（テルサホール）

講師



まつい かずひと
松井 一人

(株)ほっとリハビリシステムズ

ご略歴

学歴

1991年 福井医療技術専門学校 卒業

経歴

1991年 福井総合病院 入職
1994年 武生市役所 入職
1998年 ほっとリハビリシステムズ 創設
2017年 (株)ほっとリハビリシステムズKorea 創設
2020年 (株)ほっとフーズ 創設
2025年 医療法人 地域包括ケア振興会 創設

座長

鈴木 健太 山形済生病院

講演概要：特別講演

次世代の地域課題の解決に期待される 理学療法士の新たな役割とは
-2040年問題の波に淘汰されないために、理学療法士が持つべき視点と行動-

松井 一人

(株)ほっとリハビリシステムズ

我が国は世界に類を見ない速度で超高齢社会へ進展しており、2040年には85歳以上人口の急増に伴い、医療・介護の複合ニーズを有する高齢者、独居高齢者、認知症高齢者が大幅に増加すると予測されている。一方で、生産年齢人口の減少により医療・介護人材の確保は一層困難となり、従来型の医療・介護提供体制の持続は困難になることが想定される。このような社会構造の変化の中で、理学療法士には従来の機能回復訓練中心の役割を超え、地域課題の解決に主体的に関与する新たな役割が求められている。

本発表では、人口動態や医療・介護政策の動向を踏まえながら、2040年に向けた理学療法士の役割変革について考察する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への転換が進む中で、理学療法士は急性期・回復期・生活期をつなぐ存在として、地域包括ケアシステムの中核を担う必要がある。超高齢者支援においては、身体機能の改善のみを目的とするのではなく、本人の価値観や人生の希望、生活環境、家族関係、社会参加を含めた包括的な評価と支援が重要となる。すなわち、「何ができるようになるか」ではなく、「その人がどのように生きたいか」を基点とした支援へのパラダイムシフトが求められる。

また、今後増加する在宅医療・在宅介護の需要に対応するためには、訪問リハビリテーションや地域リハビリテーションの充実が不可欠である。理学療法士には、利用者の生活機能評価や予後予測、多職種連携における専門的アセスメント機能が期待される。さらに、介護予防、フレイル予防、認知症予防、住民主体の通いの場づくりなど、地域づくりへの参画も重要な役割となる。

発表では、福井県における地域包括ケアの実践事例や介護予防事業の成果、さらにはオランダのビュートゾルフ等の海外事例を紹介しながら、地域ケアにおける理学療法士の可能性を提示する。理学療法士はケースマネジメントのみならず、チームマネジメント、事業マネジメント、さらには地域マネジメントを担う「地域ケアのプロデューサー」としての視点を持つことが求められる。

2040年問題は理学療法士にとって危機であると同時に大きな機会でもある。地域住民、行政、多職種との協働を通じて、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる社会の実現に貢献することこそが、これからの理学療法士に求められる新たな使命である。

参加型シンポジウム

理学療法士の場合づくり

2026/09/26(土) - 13:00 ~ 15:10

(14時から10分休憩を挟みます)

第1会場 (テルサホール)

講師



「モヤモヤを第一歩に変える理学療法士の場合づくり
— 個人の思いをみんなのアイデアに変えるファシリテーション —

うらやま えり
浦山 絵里

ひとつづくり工房 esuco

ご略歴

学歴

ひとつづくり工房esuco (ゑすこ) 代表
看護師 ナースファシリテーター
生涯学習開発財団認定ワークショップデザイナー (マスター)
茨城県立医療大学客員教授

経歴

杏林大学医学部付属看護専門学校卒業、杏林大学医学部付属病院で長年勤務した後、「安全で安心な語り場づくり」と「ファシリタティブな医療現場と社会づくり」を目指して起業。
現在はファシリテーションを活かした参加型研修の実践や病院などの教育研修事業、組織開発のコンサルティングをしている。主な活動領域は、医療、看護、福祉、教育。各種職能団体等での人材育成研修やチームビルディング、教育委員会や行政、コミュニティ、子育て支援領域、まちづくり、災害復興支援現場での研修や話し合いの支援など。



病院での理学療法士の場合づくり

さかい なおこ
酒井 尚子

医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立リハビリテーション病院

ご略歴

学歴

1999年 3月 東北医療福祉専門学校 理学療法科卒業
佛教大学 社会学部 社会福祉学科卒業

経歴

1999年 4月 医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立リハビリテーション病院 理学療法科入職
2011年10月 同 理学療法科 科長
2025年 4月 同 リハビリテーション技士部 技士長

所属学会・所属委員会・役員等

一般社団法人日本理学療法管理学会 会員



地域での理学療法士の場づくり

あまの せいや
天野 成也

ミロク脳神経リハビリクリニック

ご略歴

学歴

2013年3月 目白大学 保健医療学部 理学療法学科 卒業

経歴

2013年4月 医療法人社団 明山会 山形ロイヤル病院入職（在職中に医療法人財団 明理会 山形ロイヤル病院へ名称変更）

2023年7月 医療法人財団 明理会 山形ロイヤル病院 退職

2023年8月 ミロク脳神経リハビリクリニック入職

現在、介護保険部門および訪問リハビリを主に担当する。



予防分野での理学療法士の場づくり

にっとう よしゆき
日塔 善之

医療法人社団 月山会 おやま整形外科クリニック

ご略歴

学歴

2010年 山形県立保健医療大学 保健医療学部 理学療法学科 卒業

2013年 山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 理学療法学分野 修了
修士（理学療法学）

経歴

2013年 社会福祉法人恩賜財団 済生会 山形済生病院 勤務

2021年 個人事業主としてボディメンテナンス Physi Laboを開業

2021年 医療法人社団 月山会 おやま整形外科クリニック 勤務/リハビリテーション部部長就任
現在に至る

座長

黒田 昌宏 みゆき会病院

講演概要：参加型シンポジウム



「モヤモヤを第一歩に変える理学療法士の場合」 — 個人の思いをみんなのアイデアに変えるファシリテーション —

浦山 絵里

ひとづくり工房 esuco

理学療法士（PT）が直面する現場の葛藤や「モヤモヤ」は、一見するとストレスフルでネガティブなものに見えます。しかしそれこそが、現状をより良くしていくための変革の貴重なエネルギーです。本シンポジウムでは、チームの対話と相互作用を促す「ファシリテーション」の視点から、そのエネルギーを具体的な「第一歩」に変えるための場づくりを共に探求します。

この時間は、シンポジストとの対話やファシリテーションについてのミニ講座、そして会場の参加者同士の対話を通して、自分たちにできる具体的なアクション（Try）を持ち帰っていただく場を用意しました。

日々の忙しい臨床のなかで、私たちは多くのモヤモヤを抱えています。「多職種との連携が噛み合わない」「カンファレンスが形式化している」「若手の本音が引き出せない」といった、リハビリ技術の枠を超えた組織やコミュニケーションの課題です。しかし、それらを「解決すべき深刻な課題」として捉え、わざわざ時間を作って「会議」を設けようとすると、業務の煩雑さに流されたり、いつもと同じような重苦しい空気の流れに陥りがちです。そこで今回は、正解を急いで導き出す「課題解決」の視点からあえて一歩離れ、お互いの違和感や気づきを持ち寄り、新たな可能性を共に探る「知恵を合わせる場づくり」に、ファシリテーションのスキルやマインドを活かしていく提案をします。

特に注目したいのは日常業務の隙間にある「数分間の立ち話」や「カンファレンス前後のわずかな時間」です。わざわざ会議室に集まらなくても、ほんの少しの関わり方や問いかけの工夫次第で、いつもの何気ない会話が、現場の関係性をポジティブに変化させる豊かな対話の場へと変わります。このような「日常の場づくり（小さなファシリテーション）」のヒントを、参加者の皆様と共に体験しながら探索し、仲間と知恵を合わせる「第一歩」をここから始めてみませんか。

理学療法士は、患者さんの心身の「小さな動きの変化」を見逃さないプロフェッショナルです。寝返りの一段階、歩行の一步、その繊細な変化を捉えて次への促しを行う卓越した視点を持っています。だからこそ、組織やチームに対しても「大きな改革」をドカンと起こすのではなく、立ち話という「日常のチーム内の小さな関係性の変化」から場をほぐし、次の動きを導き出していくファシリテーションのアプローチは、PTの専門性と響き合います。

今回の新しい取り組みである「参加型シンポジウム」を、まさにその体験の始まりとして、この場に集う皆さんと楽しみながら創造的に語り合いたいと思います。日々のモヤモヤをエネルギーに変え、明日からの臨床現場を少しでも豊かにする対話を、ここから一緒にスタートさせましょう。

講演概要：参加型シンポジウム

病院での理学療法士のかたち

酒井 尚子

医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立リハビリテーション病院

東北地方では人口減少と過疎化が進行しており、医療資源の偏在や人材確保の難しさといった課題が、日常臨床の中で顕在化している。そのような状況下で理学療法士には、疾患や病期ごとの専門的介入にとどまらず、医療現場全体の流れを意識しながら臨床を継続していく視点が、これまで以上に求められていると考えられる。

2040年とその先を見据えた地域包括ケアシステムの深化・推進を目指した令和8年度診療報酬改定では、急性期・包括期・慢性期と機能分化が進んでいる。同時に臨床現場では患者の生活背景や地域資源との関係性を踏まえた対応が不可欠である。理学療法士は、病期の枠組みに配慮しつつも、急性期から慢性期までを連続した過程として捉え、患者の回復や予防、生活を支援する関わりが期待されている。

本シンポジウムでは、複数病棟を有し、一定規模のリハビリテーションスタッフが関わる病棟運営の経験を基に、経営および教育の観点から、現場で直面している課題と日常的な取り組みについて共有する。

本発表では、「つなぐ」という視点を手がかりに、資源が限られる東北において、理学療法士が手応えを感じながら育ち続け、臨床現場が支え続けられるための条件に焦点を当てる。東北という地域特性を踏まえながら、理学療法士が臨床現場や組織の中でどのような役割を果たすことができるのかについて、参加者と共に考える場としたい。



地域での理学療法士のかたち

天野 成也

ミロク脳神経リハビリクリニック

脳卒中者の生活再建は、身体機能の改善や制度利用だけでは支えきれない。退院後、再発への不安を抱えながら暮らしを立て直すこと、さらに地域で支えることまで含めて、いま理学療法士に何ができるのかを、私は考えることがある。

当院では、患者・利用者や地域の声に押されるように、運転支援、脳卒中カフェ、温泉リハビリ、リハビリセミナーなどの実践を広げてきた。これらはリハビリテーションを地域に持ち出したものではなく、人がもう一度試し、つながり、役割を取り戻していくための場である。実践を重ねるなかで、地域との接点は確かに増えたように感じる。

しかしその一方で、地域に開くとはどういうことかが、むしろ分からなくなる瞬間がある。関われる人はまだ限られ、住民が本当の意味でパートナーになれているとも言いきれない。こちらが用意した場に来てもらうだけで、本当に地域に働きかけていると言えるのか。制度の外へ踏み出したつもりでも、別の囲い込みを生んでいるのではないか。そうした迷いは、実践を重ねるほどに深まっている。

本シンポジウムでは、こうした実践の成果と葛藤の双方を共有しながら、理学療法が地域へどのように広がっていけるのか、また、地域住民とともに課題を考え、次の一歩を踏み出せる場やつながりをどう育てていくかについて考えたい。



予防分野での理学療法士の場づくり

日塔 善之

医療法人社団 月山会 おやま整形外科クリニック

現在、理学療法士の職域は臨床のみならず、企業の労働災害予防や健康経営を支える「産業保健」の分野へと急速に広がっています。筆者は山形県産業保健総合支援センターの相談員として、県内の企業や事業所を中心に、転倒や腰痛予防の講話や身体機能チェック、職場での体操指導等の活動を実施しています。現在、山形県内では6名の理学療法士が相談員として活動しており、今後さらにその需要は高まっていく見込みです。

しかし、この新しい試みは手探りの連続でもあります。「講演を実施して終わり」という自己満足に陥っていないか、1年後の労働災害減少に真に寄与できているのかという葛藤は絶えません。企業側のニーズに即した介入を行い、単なる「イベント」ではなく、健康文化を職場に根付かせるための「場づくり」をどう構築すべきか。理学療法士が社会の健康インフラとして機能するためには、専門性の提示と効果の可視化が不可欠です。

本シンポジウムでは、産業保健総合支援センターの枠組みを活用した具体的な活動報告と共に、職域拡大の可能性と課題を共有します。参加者の皆様と、理学療法士がどのように社会を変え、企業の健康を支える文化を創出していけるのか。自信のなさを抱えながらも一歩踏み出した実体験をもとに、予防分野における理学療法士の新たな役割について、双方向の議論を展開したいと考えています。

教育講演 I

神経理学療法における課題解決の場づくり

2026/09/26(土) - 15:20 ~ 16:20

第1 会場（テルサホール）

講師



やまぐち ともふみ
山口 智史

京都大学大学院医学研究科 先端理学療法学講座

ご略歴

学歴

2013年 慶應義塾大学大学院 医学研究科 博士課程 修了

経歴

2004年 慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター 理学療法士
 2007年 東京湾岸リハビリテーション病院 理学療法士
 2010年 日本学術振興会 特別研究員DC1
 2013年 慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 特任助教
 2016年 日本学術振興会 海外特別研究員（コペンハーゲン大学）
 2017年 山形県立保健医療大学 保健医療学部 理学療法学科 准教授
 2020年 順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 先任准教授
 2024年 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端リハビリテーション科学コース 先端理学療法学講座 教授

座長

安倍 恭子 山形済生病院

講演概要：教育講演 I

神経理学療法における課題解決の場づくり

山口 智史

京都大学大学院医学研究科 先端理学療法学講座

神経理学療法の臨床では、脳卒中などの神経疾患に伴う dysmobility を呈する人に対し、理学療法を提供する過程で、多くの課題に直面する。例えば、目の前の現象をどのように理解するのか、その現象をどのような介入につなげるのか、介入効果をどのように判断するのか、さらに、その評価や介入方針を多職種や地域とどのように共有し、患者本人の生活の中で実行可能な動作や活動としてどのように具体化するのかという課題である。こうした課題に向き合うためには、個々の理学療法士の知識や技術を高めるだけでは十分ではない。臨床で生じた違和感や判断の迷いを言語化し、問いとして整理し、他者と共有しながら解決に向けて動く「場」が必要である。

本講演では、大会テーマである「理学療法とファシリテーションー課題解決のための理学療法士の場づくりー」を踏まえ、神経理学療法における課題解決の場づくりについて考える。まず、臨床で生じる違和感や判断の迷いを出発点として、それらをどのように言語化し、共有可能な問いとして整理するのかについて述べる。そのうえで、臨床推論と研究には、現象の観察、仮説設定、検証、実践への還元という共通した構造があることを確認し、臨床の疑問を解決に向けた実践や研究課題へ発展させる思考過程を整理する。次に、回復期リハビリテーション病院において臨床と研究をつなぐ活動に関わってきた経験をもとに、研究機器や制度の有無だけでなく、仲間を増やすこと、相談できる場をつくること、実績を小さく積み重ねること、成果を臨床や組織に還元することの重要性を述べる。

こうした場づくりは、経験年数にかかわらず必要である。特に若手理学療法士にとっては、日々の違和感や判断の迷いを一人で抱え込まず、言葉にし、相談し、小さな実践として検証していく経験が、臨床力と専門性を高める出発点となる。本講演を通じて、神経理学療法の専門性を深めるだけでなく、臨床、教育、研究、地域をつなぎ、課題解決に向けた対話と協働が生まれる場づくりを参加者とともに考えたい。

教育講演 II

内部障害リハビリテーションの現在到達点：
寿命も伸ばせる国民のための 標準医療！

2026/09/27(日) - 10:40 ～ 11:40

第1会場（テルサホール）

講師



こうづき まさひろ
上月 正博

山形県立保健医療大学・東北大学

ご略歴

学歴

1981年 東北大学医学部医学科卒業

経歴

1984年	東北大学医学部第二内科入局
1987年～1989年	メルボルン大学医学部内科留学
2000年～2022年	東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野 教授
2000年～2022年	東北大学病院 内部障害リハビリテーション科長（併任）
2002年～2022年	東北大学病院 リハビリテーション部長（併任）
2008年～2015年	東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻長（併任）
2010年～2022年	東北大学大学院医学系研究科 先進統合腎臓科学 教授（併任）
2011年～2021年	日本腎臓リハビリテーション学会理事長
2015年～2025年	Asian Society of Human Services理事長
2020年～現在	International Society of Renal Rehabilitation理事長
2022年～現在	東北大学名誉教授
2022年～現在	公立大学法人山形県立保健医療大学 理事長・学長

座長

佐藤 聡見 福島県立医科大学



内部障害リハビリテーションの現在到達点： 寿命も伸ばせる国民のための 標準医療！

上月 正博

山形県立保健医療大学・東北大学

内部障害のリハビリテーションでは、医学的な評価や適切な運動処方と運動療法・薬物療法・食事療法・患者教育・カウンセリングなどをセットにした包括的プログラムに基づいた包括的なリハビリテーション医療が行われる。

近年、わが国の内部障害のリハビリテーションは劇的な進歩を遂げた。さらに、心不全、肺高血圧症、慢性腎臓病、肝臓病などこれまで安静が治療の基本とされてきた対象疾患にもリハビリテーションの有効性が示されて、内部障害のリハビリテーション対象患者が激増している。

心血管疾患におけるリハビリテーションは、急性冠症候群、安定狭心症、慢性心不全、心臓手術後、跛行のある末梢動脈疾患、心臓移植後に対する心臓リハビリテーションであり、すべて最高レベルに相当する「クラスI、エビデンスレベルA、Minds推奨グレードA、Mindsエビデンス分類I」を獲得しており、心臓リハビリテーションは最高レベルの医療であることが明らかである。さらに、急性期に続く回復期、生活期（維持期）のリハビリテーションの重要性が強調されている。

また、肺高血圧症(PH)では従来安静が治療であったが、肺動脈性PHと慢性血栓性PHにおいては、治療の進歩による循環動態や生命予後の改善に伴い、標準的治療の付加治療として、運動耐容能やQOLの改善を目指すリハビリテーションが認識されるようになってきた（クラスIIa、エビデンスレベルB、Minds推奨グレードB、Mindsエビデンス分類II）。

慢性腎臓病に対する腎臓リハビリテーションは、腎機能改善・透析移行防止のための新たな治療としての可能性が指摘されている。腎臓リハビリテーションに関する診療報酬として、平成28年度診療報酬改定では「腎不全期患者指導加算」が、さらに、平成30年度診療報酬改定では「高度腎機能障害患者指導加算」として対象が拡大され、さらに令和4年度診療報酬改定では「透析時運動指導など加算」として透析患者にも対象が拡大され、2026年には仙台でWCN'26サテライトシンポジウム「Renal Rehabilitation Up To Date」が開催され、世界の腎臓リハビリテーションを牽引している状況にある。

心・腎重複障害では、動物モデルによる基礎研究、臨床研究ともに、リハビリテーション・運動療法により、心・腎機能の改善が示されており、複数の内部障害に対する重複障害リハビリテーションの有効性も前途洋々の感があり、今後の発展が期待される。

このように、内部障害のリハビリテーションの対象はますます広がっている。しかも、「機能を回復する」、「障害を克服する」、「活動を育む」のみならず、「寿命を延長する」ことも可能になり、理想の医療である「生活・運動機能の改善や生活の質の改善に加えて寿命の延長（Adding Life to Years and Years to Life）」を達成できる。会員諸君のさらなる積極的な参加を期待したい。

教育講演Ⅲ

発信がつなく理学療法研究 -基礎・工学・企業と広がる学際的場づくり-

2026/09/27(日) - 12:40 ~ 13:40

第1 会場（テルサホール）

講師



かとう ひろし
加藤 浩

山形県立保健医療大学大学院

ご略歴

学歴

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1991年 | 国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院 理学療法学科 卒業 |
| 2004年 | 広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程後期修了 博士（保健学） |

経歴

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 1991年 | 九州大学医学部附属病院リハビリテーション部 |
| 2003年 | 吉備国際大学保健科学部理学療法学科 助教授 |
| 2008年 | 九州看護福祉大学看護福祉学部リハビリテーション学科 教授 |
| 2014年 | 九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科健康支援科学専攻 専攻長 |
| 2020年 | 山形県立保健医療大学保健医療学部理学療法学科 学科長 教授 |
| 2023年 | 山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科 研究科長 |

座長

石川 雅樹 山形大学医学部附属病院

講演概要：教育講演Ⅲ

発信がつなぐ理学療法研究 —基礎・工学・企業と広がる学際的場づくり—

加藤 浩

山形県立保健医療大学大学院

私が就職した頃、研究に強い関心を持ち、日々、多くの論文を読みあさりながら情報収集に没頭していました。臨床疑問を解決したい、新しい知識を得たいという思いから、少しでも研究につながる情報を求め続けていました。そのようなある日、上司から「加藤君、そんなに情報が欲しいですか？」と尋ねられました。私は迷うことなく「はい、欲しいです」と答えました。するとその上司は、「それなら良い方法がありますよ」と言われ、「あなたが情報を探すのではなく、あなた自身が研究を情報として世に発信することです。学会で発表しなさい」と助言してくださいました。さらに、「情報を発信すれば、その研究に関連する情報も、人も、自然とあなたの周りに集まってきます」と続けられました。当時の私は、必要な情報は自分で探し集めるものと考えていたため、情報を得るために、まず自分が発信するという逆転の発想に、大きな衝撃を受けました。まさに目から鱗が落ちるような経験であり、この言葉は、その後の私の研究活動の原点となりました。それ以来、私は研究発表という形で継続的に情報発信を行ってきました。そして、発信を続ける中で、理学療法という枠組みを超え、多くの専門職や研究者と出会い、理学療法を新たな視点から見直す機会を得ました。

具体的には、基礎医学研究者との協働により、筋組織のATP染色を学び、筋線維特性の理解を深めながら臨床研究へ応用してきました。臨床現場だけでは得られなかった基礎医学的視点を取り入れることで、筋機能評価に対する考え方は大きく変わりました。また、工学研究者との勉強会を契機として、wavelet解析を用いた新たな筋電図解析にも取り組みました。従来の解析手法では捉えにくかった筋活動の時間周波数特性を評価する試みは、理学療法分野に新しい分析の視点を導入する挑戦でもありました。さらに、ベンチャー企業との共同研究では、小型筋電図計測機器の開発や特許申請にも携わりました。臨床現場のニーズを解決するために研究成果を社会実装までつなげるという重要性を学びました。

これら一連の経験を通じて私が実感してきたのは、研究とは知識や技術を探求することだけではなく、異なる専門性をつなぐ場を創出するプロセスであるということです。理学療法士が主体的に情報を発信することで、基礎医学、工学、企業など多様な分野との接点が生れます。そして、その接点から、新たな研究課題や技術、さらには、新たな理学療法の視点が生み出されていきます。

本講演では、これまで私が経験してきた学際的連携の実践を振り返りながら、理学療法士が主体的に「学際的場」を創出し、研究と臨床を発展させていく可能性について共有したいと思います。さらに、情報発信を起点として広がる新たな研究ネットワークと学際的展開について、参加者の皆様とともに考えてみたいと思います。

セミナー I

ファシリテーションの実践
— 「拒否」の場面から問い直す私たちの在り方 —

2026/09/26(土) - 16:30 ~ 17:30

第1 会場 (テルサホール)

講師



ほんだ ともひさ
本田 知久

(一財) 総合南東北病院

ご略歴

学歴

H13 北里大学 卒業
H18 信州大学大学院 修士課程修了

経歴

H13 総合南東北病院 (脳外科班)
H15 介護老人保健施設ゴールドメディア
総合南東北病院 (神経内科班→H20外科班→H25外科班・教育研修室兼務→R3新型コロナ
H18 病棟・南東北医療クリニック・教育研修室兼務→R5スポーツ外来・内部疾患班・脳神経
班・運動器班・病院ハラスメント相談窓口・教育研修室兼務)
H16~H20 福島学院大学 非常勤講師
H26~現在 郡山看護専門学校 非常勤講師

座長

丹野 克子 山形県立保健医療大学



ファシリテーションの実践 — 「拒否」の場面から問い直す私たちの在り方 —

本田 知久

(一財) 総合南東北病院

理学療法士は日々の臨床において、「痛いから動きたくない」「今日はリハビリをしたくない」など、患者からさまざまな反応を受ける場面に遭遇する。こうした場面では、私たちはつい「やらないと肺炎になる」「動かないと筋力が低下する」など、専門職としての正しさを伝え、相手を動かそうとしてしまうことがある。しかし、その関わりが相手の行動変容や主体的な参加につながるとは限らない。もちろん、理学療法においてエビデンスに基づいた判断や説明は重要である。本講演では、エビデンスを踏まえながらも、どのような関わりが相手の主体的な参加や行動につながるのかという視点から、ファシリテーションの実践について考えたい。

私はファシリテーションを、「相手の主体的な参加や行動を支える関わり」と捉えている。本講演では、リハビリテーションを拒否する患者との関わりを題材に、ファシリテーションの実践について考えたい。

例えば、術後の痛みにより離床や運動を拒否する患者に対して、「必要だからやりましょう」と働きかけても、相手は動かないことがある。一方で、痛みの程度や不安を丁寧に確認し、痛みを配慮した方法を一緒に考えながら、その人にとっての意味や目的を共有していくことで、患者自身が行動を選択する場面を経験してきた。そこでは、相手を変えようとするのではなく、まず相手を理解しようとする姿勢が重要であったように思う。

また、このような関わりの本質は患者対応に限らない。職員教育において指導が思うように伝わらない場面、多職種との協働が進まない場面、組織改善の提案が受け入れられない場面など、私たちが「うまくいかない」と感じる状況には共通する構造がある。相手を説得しようとするのではなく、相手の立場や価値観を理解しながら対話を重ね、その人自身の選択や行動を支えることは、臨床・教育・組織づくりのいずれにおいても求められる。

さらに、そのようなファシリテーションを実践するためには、私たち自身の在り方も問われる。自分の正しさや思い込みに気づき、異なる価値観や反応を受け止めながら対話を続けるためには、支援者自身の心理的柔軟性が必要となる。ファシリテーションとは単なる技法ではなく、自らの在り方を問い続ける営みでもある。

当日は参加者同士の対話も交えながら、「拒否」とは何か、その場面で私たちは何を見ているのかを共に考えたい。そして、そこから見えてくるファシリテーションの可能性と、私たち自身の在り方について振り返りたい。

また、明日からの臨床・教育・組織づくりにおいて、私たちの関わりが正しさや正論で相手を動かそうとするものになっていないかを問い直し、相手の主体的な参加や行動を支える関わりへの転換について考える機会となれば幸いである。

セミナーⅡ

恐怖回避思考を打破するファシリテーション：
末梢感作（筋膜）と中枢感作を考慮した暴露療法の展開

2026/09/27(日) - 09:30 ~ 10:30

第1会場（テルサホール）

講師



すが こうへい
須賀 康平

FuncPhysio NY

ご略歴

学歴

- 2009年 山形県立保健医療大学卒業
- 2013年 山形県立保健医療大学 修士課程修了（スポーツ動作解析）
- 2020年 ロマリンダ大学 臨床博士課程修了
- 2021年 ピッツバーグ大学 筋骨格系専門修士卒業

経歴

- 2009年 済生会山形済生病院入職
- 2017年 Fascial Manipulation® Certified Specialistアジア初取得
- 2018年 Physical Conditioning IKI創業
- 2020年 米国理学療法士免許取得（NY、ハワイ、ペンシルバニア州）
- 2020年 英語教授法TESOL認定取得
- 2021年 東京2020パラリンピック・メディカルスタッフ
- 2022年 FuncPhysio NY入職
- 2023年 上級前庭理学療法士取得

その他

全米トップの整形外科病院HSS: Hospital Special Surgeryやコーネル大学病院等から難治性疼痛を持つ方を中心に紹介を受けている。また、スポーツ障害や前庭症状を持つ方々の診療にも従事している。

座長

鈴木 克彦 山形県立保健医療大学

講演概要：セミナーⅡ

恐怖回避思考を打破するファシリテーション：
末梢感作（筋膜）と中枢感作を考慮した暴露療法の展開

須賀 康平

FuncPhysio NY

近年、慢性疼痛の遷延化には、恐怖回避思考を含む心理社会的因子、いわゆるイェローフラッグや、中枢神経系の興奮性亢進である中枢感作の関与が重要視されている。また、筋膜研究の進展により、筋膜障害が侵害受容入力を増強し、末梢感作に寄与する可能性が示されている。これら末梢および中枢の感作が相互に関与することで、組織損傷の程度に比して過剰な疼痛や恐怖回避が生じる。このような状態では、疼痛の主因を組織損傷に求める従来の生物医学的治療は奏功しづらい。

このような症例では、痛み経験に基づく恐怖回避思考により、動作そのものへの恐怖が増強し、活動制限が遷延しやすい。すなわち、本来中立的であるはずの運動や生活動作が、痛みの予期と強く結びついていく。したがって、身体機能のみならず認知・情動を含めた統合的アプローチが求められる。臨床の最前線においては、慢性疼痛の遷延因子として心理的要因や中枢神経系のみが単独で関与することは稀であり、筋膜障害による末梢感作や、筋膜に豊富に分布する固有受容器の異常による動作障害も重要な要素となる可能性がある。

筋膜由来の末梢感作と中枢感作、および心理社会的因子に対して評価と介入を進める上で、核となるのはコミュニケーションである。多くの慢性疼痛患者は、組織損傷が痛みの主因であるという信念を有しており、さらに筋性防御により疼痛部位を過剰に保護する傾向がみられる。そのような状況において、疼痛部位に直接介入しないことも多い筋膜へのアプローチや、身体をリラックスさせた状態での運動を通じた暴露療法を進めるためには、対象者の理解と納得を得る必要がある。しかしながら、単に知識を詳細に説明するのみでは十分な理解には至らないことが多い。

以上を踏まえ、本講演では恐怖回避思考を打破するためのファシリテーションおよび暴露療法を、筋膜由来の末梢感作と中枢感作の双方を考慮した観点から、その臨床展開について報告する。また、発表者は第二言語である英語での診療環境におけるコミュニケーション上の制約を背景に、多くの工夫を重ねてきた。本講演では、その臨床経験から得られた実践的知見についても症例と併せて紹介する。

セミナーⅢ

スポーツ現場に求められる理学療法

2026/09/27(日) - 10:40 ~ 11:40

第2会場 (アプローズ)

講師



いとう のりあき
伊藤 徳明

整体/コンディショニングサロン CROSS×OVER

ご略歴

学歴

2000年 国立療養所 犀潟病院附属リハビリテーション学院 理学療法学科 入学
2003年 国立療養所 犀潟病院附属リハビリテーション学院 理学療法学科 卒業

経歴

2003年 医療法人博医会 新潟こばり病院 入職
2009年 医療法人社団 らぼーる新潟 ゆきよしクリニック 入職
2009年 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター 入職
2011年 医療法人 さとう整形外科クリニック 入職
2021年 整体/コンディショニングサロンCROSS×OVER 開業

座長

山本 洋介 山形徳洲会病院

講演概要：セミナーⅢ

スポーツ現場に求められる理学療法

伊藤 徳明

整体/コンディショニングサロン CROSS×OVER

私は、理学療法士とは「からだの専門家」であると同時に、人と人・人と場をつなぐコーディネーターおよびファシリテーターであると考えている。スポーツ現場における理学療法士の役割は、外傷・障害後の機能回復にとどまらず、傷害予防やパフォーマンス向上、競技復帰の判断支援など多岐にわたる。その中で、評価や運動指導の「正しさ」をどこに置くのかという、理学療法士自身の考え方のベースが改めて問われている。

理学療法の実践および指導の流れにおいては、体性感覚・視覚・前庭感覚などの感覚情報が比較・選定・統合され、安全が確保された上で初めて動作企画が起こる。その後、環境条件と身体状態に応じて筋収縮パターンや関節運動の調整が行われる。したがって運動指導においては、感覚神経系の評価と安全確保を土台とし、その上に動作企画と運動パターン調整を位置づける視点が不可欠である。

私は、脳梗塞と大腿骨骨折という二つの大きな出来事を通して、痛みと恐怖のなかで「頑張る」ということの意味が大きく揺らぐ体験をした。脳梗塞発症時には、身体を思うように動かせないことが最大の問題であり、「とにかく頑張って動かす」「これまでの感覚を取り戻す」ことがリハビリテーションの中心となった。それは苦しくても、頑張ること自体は何とか続けることができた。一方で、その後に転倒し大腿骨骨折を受傷した際には、わずかな動きでも強い痛みが走り、どこまで体重をかけても大丈夫かよいのか、どの程度の痛みなら悪化させずに回復に向かうのか分からない状況に置かれた。痛みのメカニズムや安全確保の重要性は頭で理解していても、思っている以上に頑張れない自分と向き合うことになった。運動器疾患は生命に直結しないとして軽視されがちであるが、脳血管疾患のリハビリテーションが主たる対象であっても、脳梗塞に合併して運動器の痛みを有する症例は少なくないと考えられ、痛みは理学療法士が想像する以上に広い分野で大きな障壁となる。

また、スポーツ現場では、「この状態でどこに行けばよいのか分からない」「どこまで運動を進めてよいのか分からない」といった悩みや相談が少なくない。本来、治療期には医療保険を用いた医療機関への受診が第一選択とされるべきであり、復帰に向けては理学療法が中心的役割を担うことが望ましい。しかし、こうした声が自費で関わる私のもとに多く寄せられている現状は、治療計画や復帰計画に関する情報を患者や選手と十分に共有できていないことを示し、意思決定支援の場面で理学療法士との間に十分な信頼関係が築かれていない可能性を示唆している。

セミナーⅣ

理学療法を社会に実装するために ～産業分野と予防分野での取り組み～

2026/09/27(日) - 14:00 ～ 15:00

第2会場（アプローズ）

講師



みき たかひろ
三木 貴弘

株式会社PREVENT

ご略歴

学歴

- 2008年 日本福祉リハビリテーション学院理学療法学科 卒業 2011年 Curtin University, Department of Health Science, Abbreviated Physiotherapy Course 留学
2020年 北海道大学保健科学院博士課程前期課程 修了（保健科学修士）
2024年 北海道大学保健科学院博士課程 修了（保健科学博士）

経歴

理学療法士免許を取得後、オーストラリア留学、整形外科病院勤務を経て、現職。

資格

専門理学療法士（運動器・スポーツ）、Mulligan Practitioner

書籍等出版物

こんなときどうする!? 整形外科術後リハビリテーションのすすめかた（医学書院）、非特異的腰痛のリハビリテーション（羊土社）など多数

論文

腰痛・運動器疾患を中心に60編ほど。

座長

栗田 宜亨 日本海酒田リハビリテーション病院

講演概要：セミナーⅣ

理学療法を社会に実装するために
～産業分野と予防分野での取り組み～

三木 貴弘

株式会社PREVENT

【はじめに】 理学療法士が有する専門知識や技術は、これまで主に医療・介護保険制度下のリハビリテーションにおいてその真価を発揮してきた。しかし、超高齢社会のさらなる進展や生産労働人口の急減という喫緊の社会課題に対し、これらの知見を社会の仕組みとして実装し、広く還元することへの期待が高まっている。本講演では、演者が産業および予防の両分野で推進してきた具体的なサービス展開を通じ、理学療法の専門性をいかにして社会価値へと変換するか、その実践プロセスと展望を共有する。

産業保健分野において、腰痛をはじめとする作業関連性運動器障害は、労働生産性を阻害する極めて重大な要因である。演者は株式会社PREVENTにおいて、理学療法士の視点を職場環境評価に導入したサービスを展開している。本サービスでは、理学療法の専門知見を現場のステークホルダーが理解・受容しやすい形に翻訳し、実効性のある労働環境改善へと繋げるプロセスを重視している。単なる運動指導に留まらず、組織的な課題解決として理学療法の知識やスキルを使用した取り組みについて詳述する。

予防分野における社会実装の成否は、質の高い介入をいかに大規模かつ持続的に展開できるかである。演者の所属する組織は、生活習慣病の重症化予防プログラムを通じ、デジタルヘルスと専門職による介入を融合させたモデルを構築してきた。具体的には、健康保険組合等が保有するレセプトや健診データを解析して高リスク層を的確に抽出し、リモートでの行動変容支援を組み合わせることで、従来手法では困難であった大規模かつ高精度な介入を実現している。さらに、これらの実践知を社内の研究組織Insight Labにて、学術的なエビデンスへと昇華させ、その成果を再びサービスへとフィードバックし進化させるという、「研究と実践の両輪」を回すエコシステムの構築を意識している。

理学療法の価値を社会に定着させる上で最大の障壁となるのが、有効な研究成果が現場で十分に活用されない「エビデンス・プラクティス・ギャップ」の存在である。このギャップを埋めるためには、介入自体の有効性を追求するだけでなく、その届け方を科学する「実装科学（Implementation Science）」の視点が不可欠である。臨床家としての専門性に、研究とビジネスの視点を融合させ、社会実装を戦略的に進めることこそが、理学療法を真の社会インフラへと進化させる鍵となる。本講演が、理学療法の新たな可能性を拓く一助となれば幸いである。

市民公開講座

多職種連携が織りなす地域づくり ～在宅医療が彩る山形～

2026/09/27(日) - 14:00 ～ 15:00

第1会場（テルサホール）

講師



おくやま しんいちろう
奥山 慎一郎

医療法人社団侑真 訪問診療クリニックやまがた

ご略歴

学歴

2000年 埼玉医科大学医学部卒業

経歴

同年 埼玉医科大学総合医療センターにて集中治療、救急医療、内科など研修
2003年 NTT関東病院ペインクリニック科で疼痛治療専従医
2007年 埼玉県立がんセンター緩和ケア科勤務。緩和ケア専従医として病棟および緩和ケアチームで活動
2009年 鶴岡市立荘内病院にて緩和ケアチーム、訪問診療に従事
2012年 山形大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専従医。大学病院での緩和医療および医学生への教育、地域連携事業に従事
2013年 山形大学医学部附属病院 疼痛緩和診療部副部長、疼痛緩和内科副科長就任
2015年 山形県立河北病院緩和ケア病棟立ち上げ。緩和ケア科科長、地域医療支援部副部長。病院から提供する訪問診療、在宅緩和ケアを実践
同年 山形県「がん教育」事業を県からの委任で開始
2016年 山形県立河北病院 地域医療連携室 室長
同年 山形県がん教育アドバイザー就任
2019年10月 訪問診療クリニックやまがた開業 訪問診療クリニックやまがた 院長
2021年1月 医療法人社団侑真 理事長

座長

黒田 昌宏 みゆき会病院



市民公開講座

多職種連携が織りなす地域づくり ～在宅医療が彩る山形～



在宅医療は、医師や看護師、リハビリ職、薬剤師、介護職など多職種の連携で支えられています。本講演では、訪問診療の実際や地域での連携体制、人生会議の大切さについて、具体的な活動を交えながら分かりやすくお伝えします。

住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために、地域で支え合う医療と介護の形を一緒に考えてみませんか？

講師 訪問診療クリニックやまがた

奥山 慎一郎 氏

2026年
9月27日(日)
14:00 - 15:00

参加費無料
事前申込不要

会場
山形テルサ
山形市双葉町1-2-3

※13:40から受付を開始します

後援

山形県／山形市／山形県医師会／山形市医師会／山形県歯科医師会
山形県薬剤師会／山形県看護協会／山形県介護福祉士会
山形県社会福祉士会／山形県歯科衛生士会／山形県栄養士会
山形県作業療法士会／山形県言語聴覚士会
山形県立保健医療大学／山形医療技

お問い合わせ

第44回東北理学療法学術大会 事務局

WEB



MAIL

44tohoku@gmail.com

講演概要：市民公開講座

多職種連携が織りなす地域づくり ～在宅医療が彩る山形～

奥山 慎一郎

医療法人社団侑真 訪問診療クリニックやまがた

全国に先駆けて人口減少と超高齢化が進行する山形県。限られた社会資源の中で医療・介護の需要は増大し続けています。介護が必要になっても、人生の最終段階を迎えても、「住み慣れた我が家や愛着のある地域で、自分らしく暮らし続けたい」と考えている人は少なくありません。この切実な願いを叶えるためには、従来の「病院完結型」の医療から、医療・介護・福祉、そして地域住民が手を取り合う「地域完結型」の支援体制への移行が不可欠です。

在宅医療の舞台は、真っ白な病室ではありません。一人ひとりの人生の記憶が刻まれた「生活の場」です。そこでは医師や訪問看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW、ケアマネジャー、介護職、そして理学療法士をはじめとするリハビリテーション職らが専門性を持ち寄り、一つのチームとなり（ONE TEAM）患者とご家族を支えます。特にリハビリ職は、単に「身体機能の回復を目的としたリハビリ」を提供するだけではありません。人生の最終段階を迎えた時、体は思うように動かさなくなりますが、それでも生活の質（QOL）を高く維持し支える視点が求められます。このため、患者が歩んできた人生の物語や大切にしてきた価値観に耳を傾け、その人が望む暮らしを支えるために、具体的な生活動作や環境調整へと落とし込んでいくリハビリは、極めて重要な役割を担っています。

人生の最終段階に向けて、どのような医療やケアを望むかをあらかじめ話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）」。

これは単なる治療法の選択意思を確認する手続きではありません。「最期まで誰と、どこで、どのように笑って過ごしたいか」という、その人の生き方や価値観を共有する、温かい対話のプロセスです。この対話を元気なうちから、本人、家族、そして多職種チームで繰り返し重ねていくことこそが、納得のいく在宅生活の支えとなります。

本講演では、山形県における実際の訪問診療や多職種連携の取り組み、具体的な症例をご紹介します。患者やご家族の思いが「前を向いている時」も「立ちすくんでいる時」も、その気持ちの揺れに寄り添い、伴走し続ける在宅医療の実際をお伝えします。「家に帰ることは、地域に帰ること」です。専門職だけでなく、地域住民一人ひとりが支え合うことで、誰もが最期まで自分らしく暮らし続けられる地域が育まれます。本講演では、山形で実践されている在宅医療と多職種連携を通して、これからの地域づくりのあり方を、皆様とともに考える機会としたいと思います。

東北理学療法教育研究会

臨床の立場からみた臨床実習の問題点ー協同学習2:1モデルの現状と課題

2026/09/26(土) - 14:10 ~ 15:10

第2会場 (アプロース)

講師



こばやし けん
小林 賢

慶應義塾大学病院リハビリテーション科

ご略歴

学歴

- 1997年 国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院 卒業
- 2010年 東洋大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了 修士(教育学)
- 2014年 東洋大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程 単位取得後満期退学

経歴

- 1997年 慶應義塾大学病院リハビリテーション科 入職(～現在)
- 2019年～現在 東京都立大学大学院 非常勤講師
- 2020年～現在 新潟医療福祉大学 非常勤講師

資格

- 専門理学療法士(教育管理系)
- 認定理学療法士(学校教育)

座長

高見 彰淑 弘前大学

講演概要：東北理学療法教育研究会



臨床の立場からみた臨床実習の問題点 ー協同学習2:1モデルの現状と課題

小林 賢

慶應義塾大学病院リハビリテーション科

【はじめに】

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則および理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインが改正されたことにより、診療参加型臨床実習は標準的な実習形態となった。もはや従来型と言われる、いわゆる患者担当型臨床実習を知る人達は現状の理学療法士会員数からすれば少数派であろう。

【診療参加型臨床実習の現在地】

それでは診療参加型臨床実習が円滑に進んでいるのかと言えば、これはまた別の問題である。かつての実習形態を知る教員や実習指導者においては、自分達が経験していないこの実習に戸惑い、何らかのモロモロさを感じているように思われる。それはなぜか？この診療参加型臨床実習なるものは、その用語のみが先行してしまい、理学療法士においては実習の中身について十分に議論されてこなかったからである。

医学教育では2001年、歯学教育、獣医学教育では2016年から導入され一定の期間が経過した。とりわけ、医学教育では診療参加型臨床実習実施ガイドラインにおいて、実習の趣旨、組織体制、カリキュラム、学修目標・方略・評価などが幅広く示されている。まずはこれらを参考に理学療法士ではどのように診療参加型臨床実習を展開することが出来るのか考えてみる。

【協同学習は有効なのか？】

臨床実習は個々の学生がそれぞれ別々の実習施設に配置され、指導者とマンツーマンで行うことが何の疑いもなく続いてきた。この長い歴史を本当に変更する必要があるのだろうか。私自身、10数年前からメルボルン大学の4週間の海外実習を受け入れてきたが、その際、必ず学生は2名以上配置されることが当然であった。学生は事前に十分なディスカッションを行い、その後、患者介入に際してもそれぞれがお互いを気遣いながら実践していた。同じ経験を有する者同士が協力しながら問題解決する姿勢は大変印象的であった。後に文献で知ることになるが、この協同学習は理学療法士の臨床実習においても有効な手段である。

それでも多くの疑問があるだろう。学生1人でも指導に難渋するのに、2人になったら負担が2倍になるのではないか。結局は指導時間だけが増えて、個々の学生の経験が減少するのではないか。同じ学校から2名がいいのか、別々の学校からがいいのか。学力差があったらどうするのかなど。協同学習を導入してみれば、これほど良い方法があったのかと思えるが、その一歩を踏み出すことが難しい。今回は協同学習の概要をお伝えすると共に、自らの実践から見えてきたものを紹介する。

【おわりに】

最善の臨床実習とは何か？医療系専門職では医師を始めとして複数の職種で診療参加型臨床実習が実践され、これが療法士の領域に拡大してきたのは当然の流れである。その中で理学療法士はどのような臨床実習を実現できるだろう。協同学習を含めて多岐にわたる選択肢の中から考えていく必要がある。

東北ブロック協議会 教育研修部主催研修会

誰でも明日から始められる臨床研究
～N-of-1 研究がつなぐ臨床とエビデンス～

2026/09/27(日) - 12:40 ～ 13:40

第2会場（アプロース）

講師



わたなべ じゅんいち
渡部 潤一

山形県立保健医療大学

ご略歴

学歴

愛媛大学大学院 医学系研究科 博士課程修了

経歴

2023年4月 ～ 2023年8月

山形県立保健医療大学 保健医療学部 理学療法学科 准教授

2023年9月 ～ 現在

山形県立保健医療大学 保健医療学部 理学療法学科 教授

座長

海老名 陽介 長井病院



講演概要：東北ブロック協議会 教育研修部主催研修会

誰でも明日から始められる臨床研究
～N-of-1 研究がつなぐ臨床とエビデンス～

渡部 潤一

山形県立保健医療大学

理学療法をはじめとするリハビリテーション医学において、根拠に基づく医療（EBM）の重要性は定着している。しかし、最良のエビデンスとされるランダム化比較試験（RCT）やメタアナリシスは「集団の平均値」であり、多様な個別性や複数の合併症を持つ目の前の患者に必ずしも適合しないというジレンマがある。特にリハビリテーション現場は、病態の根本的な治癒が難しく、症状改善や進行予防を主眼とした「試行錯誤（Trials & Errors）」によるベストプラクティスの発見が日常的に行われている。

本講演では、こうした臨床の特性と極めて親和性が高く、2010年代以降に臨床研究のゲームチェンジャーとして注目を集めている「N-of-1研究（単一被験者研究）」について概説する。実務者が明日からの臨床実践の中で、いかにして「目の前の1人」から科学的エビデンスを構築できるか、その具体的な手法と展望を提示することを目的とする。

N-of-1研究は、患者個人を対象としたクロスオーバー形式のRCTであり、プロスペクティブ（前向き）に実施される。従来のレトロスペクティブ（後ろ向き）な症例研究とは異なり、可能な限りブラインド化を行い、実介入と対照介入（標準治療やプラセボなど）をランダムあるいはバランス化して交互に反復する。

これにより、プラセボ効果や自然経過によるバイアスを最小限に抑え、介入と結果の因果関係を客観的に証明できるため、一部のEBM指針では最上のエビデンスレベルとして位置づけられている。【臨床現場における実践のポイント】実務者が明日から本手法を取り入れるための留意点は以下の通りである。適応の選定：症状が頻回に反復する慢性疾患や状態が適しており、介入による効果が即時的で、前の治療の影響（carry-over効果）が少ないケースが最適である。

測定の簡便化：スマートフォンやウェアラブルデバイスを活用することで、臨床業務を妨げることなく、多種類のアウトカム（疼痛、身体活動量など）を網羅的に時系列データとして収集できる。

共同意思決定への応用：データを視覚的にフィードバックすることで、患者中心のケア（Patient-centered care）や治療の納得感を高めるツールとして機能する。

さらに近年では、複数のN-of-1研究を標準化してまとめる（シリーズ化する）ことで、集団疫学と同様に一般化可能なエビデンスを生み出す手法（階層ベイズモデル等の活用）も提案されており、希少疾患や個別性の高いリハビリテーション分野での重要性は増している。本研究手法は、臨床と研究を分断するのではなく地続きにするものである。日々のリハビリテーション実践に少しの「実験計画（デザイン）」を加えることで、明日からの臨床がそのまま価値ある研究へと昇華する一助となれば幸いである。

対話の場 I

現場の話をしよう えんたくんでの場づくり

2026/09/26(土) - 15:20 ~ 16:20

対話の場 (テルサホール ホワイエ)

ファシリテーター



うらやま えり
浦山 絵里

ひとづくり工房 esuco

講演概要：対話の場 I



現場の話をしよう えんたくんでの場づくり

浦山 絵里

ひとづくり工房 esuco

本セッションは、参加型シンポジウムの興奮と余韻をそのままに、参加者の皆様とシンポジストが共に語り合う「リフレクション（振り返り）タイム」です。

ここでは、対話を豊かにするユニークな仕掛けとして、円形ダンボール「えんたくん」を使用します。参加者がひざの上に大きな円盤を載せて輪になるだけで、大きな机がなくても、どこでも手軽に対等でフラットな話し合いの場が生まれます。シンポジウムでインプットされた刺激を、リラックスした空気のなかで言葉にし、可視化していくプロセスの効果をぜひ体感してください。

また登壇者も一人の対話の仲間として、皆さんの輪に加わります。「シンポジウムを聴いて、自分の現場のあんな風景が浮かんだ」「もっとここを掘り下げて話し合いたい！」そんな話し足りなかった皆様のご参加を、心よりお待ちしております。ファシリティブな場から生まれる、新たな知恵の創発を一緒に楽しみましょう。

◆ えんたくんとは？

直径約1メートルの円形に加工されたダンボール板です。参加者がひざの上に載せて囲むことで、立場を超えて誰もが等身大で話せる、優れたコミュニケーションツールとして全国のワークショップなどで活用されています。

＊えんたくん

「えんたくん」とは、直径約1メートルほどの円形に加工されたダンボール板のことです。これを参加者がひざの上に乗せて輪になることで、どこでも手軽に対等な話し合いの場を作れるコミュニケーションツールとして活用されています。

www.amazon.co.jp/dp/4840307148

対話の場Ⅱ

モヤモヤからチーム力を高める ミニホワイトボードでの場づくり

2026/09/26(土) - 16:30 ~ 17:30

対話の場 (テルサホール ホワイエ)

ファシリテーター



くろだ まさひろ
黒田 昌宏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

講演概要：対話の場Ⅱ

モヤモヤからチーム力を高める ミニホワイトボードでの場づくり

黒田 昌宏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

日常の臨床や職場では、うまく言語化できない違和感やモヤモヤを抱えながらも、そのまま流れてしまう場面が少なくありません。そのモヤモヤは形を変えれば前に進むパワーになり、身近な人と共有できれば、課題に立ち向かえるチームを作ることができます。本ワークショップでは、そうした未整理の思考や感覚に焦点を当て、ミニホワイトボードを用いた可視化と対話を通じて、それらを外在化し共有することを目的としています。

具体的には、参加者が身近な困りごとを自由に書き出し、その内容を手がかりにオープン・クエスチョンを用いた対話を行います。ホワイトボード・ミーティング®の質問の技カードを使った対話を体験するワークショップです。現状にモヤモヤを感じるけど相談できる形になってない、チーム力を高めたい、仲間づくりをしたいといった方にこそぜひご参加いただきたいと思っています。ミニホワイトボードを使って、聞き合うことの価値や問いの必要性を体験し、まだ形になっていない思考を可視化しながら共に探ることで、新たなアイデアの創発を実感できると思います。モヤモヤを表現して、チーム力を高めるきっかけになれば幸いです。

【ゴール】

- ・良好なコミュニケーション
- ・小さな対話の積み重ねによる変化を感じる
- ・モヤモヤを表現する場づくりの体験

【流れ】

- ・チェックイン：4つのコーナー
- ・ミニホワイトボードでのペアトーク
- ・企画会議

対話の場Ⅲ

医療介護連携をブロックで語ろう
—LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用したワークショップ体験会—

2026/09/27(日) - 09:30 ～ 10:30

対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター



やまだ かおる
山田 カオル

山形県立保健医療大学 看護学科



さとう しほ
佐藤 志保

山形県立保健医療大学 看護学科

講演概要：対話の場Ⅲ

医療介護連携をブロックで語ろう
ーLEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用したワークショップ体験会ー

山田 カオル 山形県立保健医療大学 看護学科

佐藤 志保 山形県立保健医療大学 看護学科

【はじめに：背景と目的】 地域包括ケアシステムの深化に伴い、理学療法士には病院完結型から地域完結型への役割転換が求められている。しかし、医療と介護の現場間には依然として「専門用語の壁」や「役割認識のズレ」が存在する。従来
の会議では発言力の強い個人の意見に集約されがちであり、多様な専門職が等しく
知見を出し合うことは容易ではない。 本ワークショップの目的は、玩具として馴
染み深いレゴ®ブロックを用いた「LEGO®SERIOUS PLAY®（以下、LSP）」メソッ
ドを活用し、医療介護連携における課題を可視化し、参加者がフラットに対話でき
る場を体験することである。

【LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドとは】 LSPは、マサチューセッツ工科大学
(MIT) の「コンストラクショニズム（構築主義）」に基づき、レゴ社が開発した
課題解決手法である。「手と脳は連動している」という理論を基盤とし、言葉だけ
では表現しにくい内面的な思考や価値観を、ブロックを用いた「作品（モデル）」
として具体化する。 この手法の最大の特徴は、対話の対象を「人」ではなく「作
品」に置くことにある。これにより、心理的安全性が確保され、批判を恐れずに本
質的な議論を行うことが可能となる。

【ワークショップの内容と流れ】 本体験会では、認定ファシリテーターのガイ
ドのもと、以下のプロセスを展開する。

1. **スキルビルディング**: ブロックに意味を付与し、メタファー（比喩）として活用する基礎演習を行う。
2. **個人のモデル作成**: 「私が大事にしている医療介護連携」というテーマに対し、参加者一人ひとりがモデルを作成する。
3. **共有と対話**: 作成したモデルに込めたストーリーを語り、他者は作品に対して質問を投げかける。
4. **景観の構築(グループワーク)**: 各自のモデルを配置し、地域における連携の相関図を立体的に構築する。
5. **リフレクション**: ワークを通じて得た気づきを、実臨床や地域活動にどのように還元するかを言語化する。

【期待される効果と結び】 本手法により、複雑な連携課題を立体化する「思考の可視化」、全員が作り全員が語る「100%の参加」、共通の媒体を通じた「共通言語の構築」という3つの効果が期待できる。 理学療法士が地域リハを牽引するには、多職種を繋ぐ「対話の場」をデザインするスキルが不可欠である。本体験会が、参加者にとって「連携の新しいカタチ」を模索する機会となることを期待する。

対話の場Ⅳ

これからのキャリアデザインを考えるジョブヒストリー曼荼羅体験
～これまでを見直し、対話で自分のリソースを探そう～

2026/09/27(日) - 10:40 ～ 11:40

対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター



うらやま えり
浦山 絵里

ひとつづくり工房 esuco

講演概要：対話の場Ⅳ

これからのキャリアデザインを考えるジョブヒストリー曼荼羅体験
～これまでを見直し、対話で自分のリソースを探そう～

浦山 絵里

ひとつくり工房 esuco

本セッションでは、これからのキャリアデザインを描き、自分自身の強みや資産（リソース）を再発見するためのツールとして「ジョブヒストリー曼荼羅」を活用します。

一人で履歴書を書くような内省とは異なり、ここではファシリテーションのスキルを用いた「問いかけ」と「対話」を掛け合わせます。仲間との対話する（相手に聴いてもらう）プロセスを通じて、自分一人では気づけなかった経験の意味に光が当たり、キャリアの可能性やワクワクする選択肢を考える「創発的な対話」をリアルに体感する時間です。

ご自身のこれまでの歩みを展望したい方にはもちろん、マネージャーや教育担当者の方にも深くおすすめしたいプログラムです。スタッフの語りを引き出し、主観的な気づきを促すファシリテーションの具体的な関わり方を、まずは自分自身の体験を通じて練習してみましょう。明日からの臨床と、スタッフ育成の現場を豊かにする新しい視点を、ぜひここから持ち帰ってください。

対話の場Ⅴ

面談に役立つファシリテーション

2026/09/27(日) - 12:40 ～ 13:40

対話の場（テルサホール ホワイエ）

ファシリテーター



くどう みき
工藤 美季

tsunagu



面談に役立つファシリテーション

工藤 美季

tsunagu

多忙を極める医療現場において、患者や家族、また職員間での意思疎通をより迅速かつ確実にを行うための「ホワイトボード・ミーティング®」の技術を習得するプログラムです。医療の現場では、限られた時間の中で対象者の真のニーズや不安を正確に汲み取り、治療方針やケア、あるいは業務における合意形成を図る高度なコミュニケーションが求められます。

本研修により、可視化（見せる化）しながら進める面談スキルを学ぶことで、対人・対組織の双方において次のような効果が期待できます。

- **患者・家族との安心感と信頼関係の構築:** 話し手の言葉がその場でホワイトボードに文字として記録されるため、「聴いてもらえている」という強い安心感が生まれ、短時間でも深い信頼関係(ラポール)が築けます。
- **職員間面談の質向上と離職防止・育成果:** 1on1や定期面談において、部下や同僚の本音、業務上の課題、キャリアへの想いが可視化されます。感情的にならず客観的に課題を整理できるため、メンタルヘルスの不調や孤立を早期に防ぎ、心理的安全性（誰もが安心して発言できる状態）の高い職場づくりと職員の定着・育成に貢献します。
- **情報の整理と共有の迅速化:** 複雑な状況や感情が絡み合う会話でも、論点が構造化されて一目でわかるようになり、認識のズレやチーム内でのコミュニケーションエラーを防ぎます。
- **次のステップへのスムーズな移行:** 課題と次のアクションが明確になるため、納得感のある合意形成や、自律的な行動変容へとスムーズに導くことができます。

多職種連携やチーム医療の現場、そして日々のマネジメント業務をより効率的で温かみのあるものにするための、実践的なコミュニケーション技術を学びます。

【ゴール】

- ・参加者同士の対話を楽しむ。
- ・可視化の価値を共有できる。
- ・オープン・クエスチョンを使って公平中立に聞く

【流れ】

- ・チェックイン
- ・ペアコミュニケーション
- ・面談時のポイント
- ・定例進捗会議模擬で面談

対話の場Ⅵ

哲学的な対話のための場づくり 「学ぶ」とは

2026/09/27(日) - 14:00 ～ 15:00

対話の場 (テルサホール ホワイエ)

ファシリテーター



くどう みき
工藤 美季

tsunagu

講演概要：対話の場Ⅵ

哲学的な対話のための場づくり 「学ぶ」とは

工藤 美季

tsunagu

多忙を極める医療現場において、医療従事者が「学ぶことの真の意味」を哲学的に問い直し、ケアの本質や自身の原点を見つめるための対話型研修です。日々の業務や技術習得に追われがちな医療の現場において、「なぜ私たちは学ぶのか」「経験をどう血肉化していくか」を深く語り合うことは、医療者としてのレジリエンス（しなやかな回復力）を高め、日々の実践に新たな意味を見出すという極めて重要な価値を持っています。

しかし、こうした抽象的で深いテーマの対話は、時に議論が発散し、感覚的な話に終始してしまう難しさもあります。そこで本研修では、効率的かつ創造的な思考整理を得意とする「ホワイトボード・ミーティング®」の「企画会議」のフレームを活用して対話を展開します。

- **多様な価値観の可視化と構造化:** 参加者それぞれの「学び」に対する葛藤や持論をホワイトボード上に文字として可視化し、論点を構造化することで、感情にとらわれず互いの思考の背景を深く理解し合うことができます。
- **本質的な「問い」の深化と着地:** 企画会議のプロセスを対話に応用することで、「哲学的な問い」という抽象的なテーマから、明日からの医療実践や自己成長に直結する具体的な気づきと納得感を導き出すことができます。

対話を通じて職場の心理的安全性を高め、互いに支え合いながら、共に成長し合える場と体験いただけたらと思う。

【ゴール】

- ・参加者同士の対話を楽しむ。
- ・可視化の価値を共有できる。
- ・オープン・クエスチョンを使って公平中立に聞く

【流れ】

- ・チェックイン
- ・ペアコミュニケーション
- ・企画会議の進め方
- ・哲学対話

後援御芳名

山形県

山形市

山形県医師会

山形市医師会

一般社団法人山形県歯科医師会

一般社団法人山形県薬剤師会

公益社団法人山形県看護協会

一般社団法人山形県介護福祉士会

一般社団法人山形県社会福祉士会

一般社団法人山形県歯科衛生士会

公益社団法人山形県栄養士会

一般社団法人山形県作業療法士会

一般社団法人山形県言語聴覚士会

公立大学法人山形県立保健医療大学

学校法人諏訪学園山形医療技術専門学校

(順不同・敬称略)



ご協力頂いた企業・団体 御芳名

◎機器展示及び書籍販売協賛企業

株式会社セラPOST

フィンガルリンク株式会社

株式会社インボディ・ジャパン

酒井医療株式会社 仙台営業所

アビリティーズ・ケアネット株式会社新潟営業所

株式会社Aimedic MMT

株式会社レイマック

パシフィックサプライ株式会社

高陽堂書店

◎企業広告協賛

株式会社大風印刷

岡崎医療株式会社

◎広告協賛施設

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院

社会医療法人松柏会 至誠堂総合病院

医療法人社団丹心会 吉岡病院

TOHOKU PT45TH in MIYAGI



話そう、その感覚を。

2027
9/11
SAT
▼
9/12
SUN

第45回東北理学療法学術大会

理学療法介入技術の再考～日頃の臨床場面を言語化する～

学術大会長：鈴木 誠(東北文化学園大学)

副学術大会長：田邊 素子(東北福祉大学)・安孫子 洋(みやぎ県南中核病院)

メイン会場

東北文化学園大学

市民公開講座

東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

主催：日本理学療法士協会 東北ブロック協議会 / 担当：一般社団法人 宮城県理学療法士会



詳しくはコチラ



審査員一覧

中田 隆文	マリオス小林内科クリニック
今野 裕樹	医療創生大学 健康医療科学部 理学療法学科
佐竹 将宏	秋田大学
佐藤 友則	東北労災病院治療就労両立支援センター
佐藤 聡見	福島県立医科大学
原 和彦	仙台青葉学院大学
及川 龍彦	岩手リハビリテーション学院
古川 大	秋田リハビリテーション学院
吉田 俊太郎	郡山健康科学専門学校
吉田 高幸	東北文化学園大学
坂上 尚穂	仙台青葉学院大学
岡崎 可奈子	公立大学法人 福島県立医科大学
岩澤 里美	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
我妻 昂樹	東北文化学園大学
新國 悦弘	東北大学病院
星 真行	福島県立医科大学
村上 賢一	東北文化学園大学
柴 喜崇	福島県立医科大学
浦山 樹	山形大学医学部附属病院
添田 健仁	L-CUB訪問看護八山田
澁谷 綾祐	国立病院機構岩手病院
畠山 和利	秋田大学医学部附属病院
相馬 奨太	東北大学病院、東北大学大学院臨床障害学分野
網本 和	仙台青葉学院大学
菅井 康平	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
蔵品 利江	(一財)総合南東北病院
藤田 俊文	弘前大学大学院保健学研究科
越後 あゆみ	東北メディカル学院
鈴木 博人	東北文化学園大学
鈴木 栄三郎	公立大学法人 山形県立保健医療大学
高山 僚平	公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
高橋 一揮	東北文化学園大学 医療福祉学部
高橋 裕介	秋田大学医学部附属病院
齋藤 真紀子	秋田赤十字病院

(順不同・敬称略)



学術大会運営組織

担当	名前	所属
大会長	黒田昌宏	みゆき会病院
副大会長	鈴木健太	山形済生病院
副大会長	遠藤武秀	山形済生病院
副大会長	石川雅樹	山形大学医学部附属病院
副大会長	福田守	山形医療技術専門学校
準備委員長	寺崎聡	みゆき会病院
事務局長	鈴木栄三郎	山形県立保健医療大学
総務部長	荒井正志	みゆき会病院
副総務部長	原田琢馬	ライフケアセンター南館
財務部長	梅津幸子	吉岡病院
副財務部長	石沢栄太	山形県立中央病院
財務部	早坂慎也	いちまる訪問看護ステーション
広報部長	林知明	日本海総合病院
副広報部長	檜山夏美	訪問看護ステーションにこ
広報部	佐藤勇貴	篠田総合病院
広報部	矢島慎也	本楯たちばな会
学術局長	大森允	山形大学医学部附属病院
副学術局長	長岡孝則	日本海総合病院
抄録管理部長	小野修	山形済生病院
副抄録管理部長	佐藤公亮	山形済生病院
査読審査部長	山口純	公立置賜総合病院
副査読審査部長	高橋七海	公立置賜総合病院
演題管理部長	栗田宜享	日本海酒田リハビリテーション病院
副演題管理部長	池田優斗	日本海総合病院
演題管理部	大野裕樹	日本海総合病院
HP管理部長	浦山樹	山形大学医学部附属病院
副HP管理部長	後藤郁弥	山形大学医学部附属病院
HP管理部	村上優太	山形大学医学部附属病院
企画調整部長	多田雄一	最上町立最上病院
副企画調整部長	原田慎治	最上町立最上病院
生涯学習部長	辺見千佳	山形大学医学部附属病院
運営局長	山本洋介	山形徳洲会病院
会場管理部長	多田雄俊	山形徳洲会病院
受付接待管理部長	鈴木孝氏	篠田総合病院
スライド管理部長	多田勇貴	至誠堂総合病院
アナウンス管理部長	後藤富士子	山形徳洲会病院
対話の場管理部長	鈴木映那	ライフケアセンター南館

先進の AI が、
医療現場の質をさらに高める。

リハビリテーション業務支援システム

セラPOST

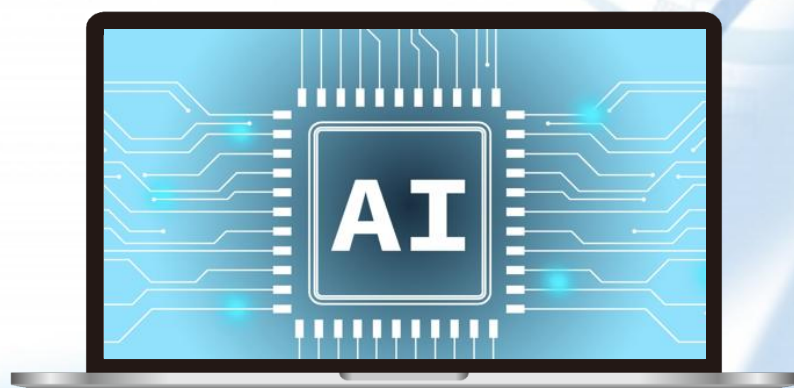
リハビリ業務を、もっと速く、もっとスマートに。

AI機能搭載で記録作成を大幅効率化！

こんなお悩みはありませんか？

- 記録作成に時間がかかる
- 同じような文章を何度も入力している
- スタッフごとに記録の表現バラつく
- 診療報酬改定への対応が不安
- 残業時間を減らしたい
- 要約の作成が大変

2026 年診療報酬改定にも対応



すべてAIが解決

小規模施設様には

月額制

サブスク版

初期費用を抑えて、月額定額料金で
利用できるお得なプランです。

デジタル化・AI 導入補助金 2026

中小企業デジタル化・AI導入支援事業

無料のデモンストレーション実施中！

お問合せは
コチラから



株式会社

セラPOST

〒890-0002

鹿児島市西伊敷 2 丁目 20 番 7 号

TEL:099-801-3204

FAX:099-801-4008

<https://www.thera-post.com>

受付時間：09:00~18:00（土・日・祝・年末年始を除く）

高画質、高機能。

優れた機動性で様々なニーズに応える診療ツール

様々なニーズに柔軟に応える、超音波画像診断装置 Smash。

そのこだわりは、高画質テクノロジーを結集した
“ハイエンドプラットフォームイメージング”による
高品質かつ鮮やかな診断画像に現れています。

しかも、快適なワークフローの実現により
診察室で、病室で、救急現場で、
診断に役立つ高画質を、リアルタイムに提供。
ポータブルならではの機動性と、高い耐久性により、
緊急時やハードな環境でも柔軟に対応できる診療ツールです。

超音波画像診断装置

Smash

Mobile Excellence HM70 EVO

一般的名称：汎用超音波画像診断装置

販売名：超音波画像診断装置HM70 EVO

医療機器認証番号：304ADBZX00117000



AI 技術で神経を自動検出

NerveTrack(ナーブトラック)機能

※オプション機能

ディープラーニングにより、スキャン中にリアルタイムで神経を検出。さらに、術者がプローブを動かすたびに、神経の位置を追跡します。

[対象神経]

正中神経、尺骨神経、橈骨神経、腕神経叢、坐骨神経、総腓骨神経、脛骨神経、大後頭神経

※特定のプローブ、モードで使用可能です。詳細は、弊社担当者にお問合せください。



酒井医療株式会社 仙台営業所

〒984-0032 仙台市若林区荒井 8-3-6

TEL：022-390-6840

詳細は、弊社担当者にお問合せください。

デモンストレーション受付中!



ホームページのお問合せフォーム
または、左記のお電話にて
お気軽にご連絡ください。



活動場面に応じた姿勢保持
 アクティビティチェア



楽しみながら下肢の運動
 トライサイクル



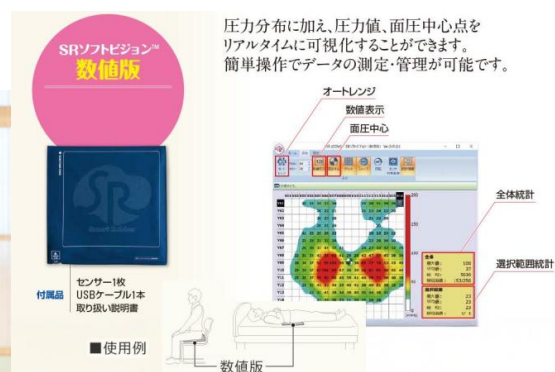
吸盤で簡単固定 上肢を固定し姿勢を安定 アンカーシリーズ



医療ケア児のための入浴補助用具
 簡易浴槽ミニ



【免荷表示装置付歩行訓練車 リフトン
 ペーサー（電動）】介助者一人でも安
 全に起立/着座、立位・歩行訓練が行
 えます。免荷表示機能付き。



【SRソフトビジョン】体圧分布
 を視覚化・数値化して簡単測定
 できるセンサー



EMS⁺ 拡散型圧力波

Swiss DolorClast[®] SYSTEM RADIAL

- ・内蔵型デュアルコンプレッサー採用多機能モデル
- ・総エネルギー量（EFD）を可視化
- ・ハンドピース側でも刺激強度（Bar）調節可能
- ・3つの施術モードを搭載
- ・3種のプリセットプロトコル値とユーザーカスタマイズ機能搭載

“Get your PATIENTS going!”



製品WEBページ

JMDN コード 34489000 特定保守管理医療機器

医療機器承認番号: 30500BZ100038000

一般的名称: 振動ヘッド付空気圧式マッサージ器 販売名: SWISS DOLORCLAST システム ラディアル

選任製造販売業者: 株式会社 **Aimedic MMT**

〒108-0075 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス

TEL: 03-5715-5211 / FAX: 03-5715-5265

URL: <https://www.aimedicmnt.co.jp/>

製造業者: E. M. S. ELECTRO MEDICAL SYSTEMS S.A. (スイス)

人と人をつなぎ
幸せを創り
社会に貢献します。

株式会社大風印刷

〒990-2338

山形市蔵王松ヶ丘1-2-6

Tel.023-689-1111



WEB

Okaze
OKAZE CORPORATION



スマートフォンと連携して使用可能なリハビリ向け製品

※薬事未承認品

STEP Ai+ plus



Point 1

従来の専用端末から直感的な操作が可能なスマートフォンアプリに進化しました。

Point 2

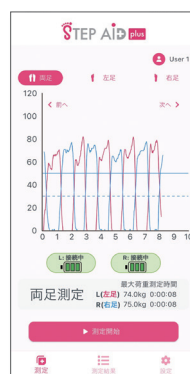
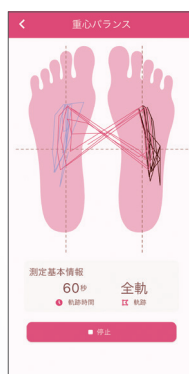
患者毎にデータを整理して保存できるため、フィードバックがしやすくなりました。

Point 3

バランスエイドの機能「4分割センサー」が搭載され、重心バランスが確認できるようになりました。



直感的な
操作が可能



iPhone、iPad 対応 ※アプリ無償



地域と共に 山形を元気に

医療機器・医療用消耗品・福祉介護用品

OKAZAKI・IRYO



岡崎医療株式会社

OKAZAKI MEDICAL CO., LTD.

本社・山形営業所

TEL 023-623-0546

鶴岡営業所

TEL 0235-22-0106

家事代行サービス《オーラ》

TEL 0120-305-538

調剤薬局

医学部前・鈴川・かごた・城西・七日町・ひのき町・天童いずみ町

<https://www.okazaki-iryo.jp/>

Email info@okazaki-iryo.jp



会社HP

GAIT INNOVATION

サブスクサービス開始!

臨床現場で簡単に調整できる評価用長下肢装具
「GAIT INNOVATION(ゲイトイノベーション)」が
サブスクでご利用いただけるようになりました。

サブスクだから、導入がもっとスマートに



初期費用を大幅にカット!

月々定額のお支払いで初期導入コストを抑えることができます。



もしもの時も安心!

定期的な点検・保守の対応や
消耗品のサポートなど
安心してご利用いただけます。



短期利用もOK!

1か月単位でご利用可能!
必要な時に必要なだけご利用いただけます。



1本あたり

月額 **7,700** 円(税抜) 8,470 円(税込)

ご利用の流れ



01

お申込み

専用の申込サイトより
お申し込みください。



02

契約・納品

契約内容及びお届け日のご連絡を致します。
契約締結後、配送業者を通じて郵送いたします。



03

使い方説明

オンラインで使い方を
ご説明いたします。
(ご希望時)



04

お支払い

月末にご請求、翌月末まで
にお支払いとなります。
※月単位の自動更新です。

パシフィックサプライ株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1

TEL: 072-875-8008 FAX: 072-875-8010

<https://www.p-supply.co.jp/>

お申し込み・詳細はこちらから▶





社会医療法人 松柏会

至誠堂総合病院

【病棟】199 床

3 階病棟 地域包括医療病棟（40 床）

4 階病棟 回復期リハビリ病棟（55 床）

5 階病棟 障害者施設等一般病棟・地域包括ケア病棟（52 床）

6 階病棟 地域包括ケア病棟（52 床）

【診療科目】

内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・糖尿病内科・脳神経内科・総合診療内科・
外科・整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科・婦人科・緩和ケア科

【病院提供 訪問・在宅医療サービス】

■ 訪問リハビリテーション（病院直轄）

病院の専門理学療法士・作業療法士が直接ご自宅に伺い、生活に即した効果的な機能訓練を行います。

■ 訪問リハビリテーション（病院直轄）

看護師がご自宅を訪問し、主治医と連携のもとで病状観察・療養生活の安心サポートを提供します。

【関連施設】至誠堂総合ケアセンター

～介護老人保健施設・サ高住・地域在宅介護支援～

■ 通所リハビリテーション

身体機能の維持・向上および日常生活動作獲得に向けたデイケアサービス

■ 老健入所リハビリ

介護老人保健施設での機能回復・在宅復帰に向けた施設リハビリの提供

■ サービス付高齢者住宅

高齢者が安心して自立した生活を送れる、見守りや生活支援付きの賃貸住宅

■ 居宅介護支援事業所

最適な介護サービス計画（ケアプラン）の作成と各機関との連絡調整



理学療法士 作業療法士

正規

募集

子育て中、ブランクのある方も歓迎します

理学療法士:38 名
作業療法士:27 名
言語聴覚士:6 名
歯科衛生士:1 名 在籍
(2026 年 8 月 1 日)



病院見学会を随時開催しています

※ご希望の方は、下記担当までご連絡ください

病院HPは
こちらから



【担当】

至誠堂総合病院 総務課 2

電話: 023-622-7181 (内線: 233)

Mail: soumuka@shiseidio-hp.jp

【認定施設基準】

脳血管疾患等リハビリテーション I

運動器疾患リハビリテーション I

呼吸器疾患リハビリテーション I



吉岡病院

YOSHIOKA HOSPITAL

整形外科

内科

脳神経外科

リウマチ科

リハビリ
テーション科

麻酔科

良い医療を、いつでもすぐに。
すべての人に開かれた病院を。

「義理・人情・礼儀」を礎に、正直で人間味のある医療を。
安全・誠実・迅速を行動指針に、どなたにも開かれた医療を提供します。



吉岡病院

〒994-0026

山形県天童市東本町三丁目5番21号

TEL:023-654-1188 FAX:023-654-8939





社会医療法人みゆき会 みゆき会病院



日本医療機能評価機構認定病院 3rdG:Ver2.0

整形外科

内科

麻酔科

脳神経外科

リハビリテーション科

放射線科

歯科



Instagram



X (旧:Twitter)



<https://www.miyuki.or.jp/>



〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目2番11号 TEL(023)672-8282